

ミュージズ N0.16 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2005年11月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安齋育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumei.ac.jp>

全国の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。平和博物館国際ネットワークの Newsletter はまだ発行されていませんので、こちらに入ってきているニュースだけお知らせします。

「平和のための博物館・市民ネットワーク」 第5回全国交流会の案内

2005年12月3日(土)13時～18時と4日(日)9時～12時の予定で、京都市の立命館大学国際平和ミュージアムの会議室で「平和のための博物館・市民ネットワーク第5回全国交流会」を開催します。

交流会の報告予定は次の通りです。

〈報告順は未定です、報告題は仮のものです〉

1. アウシュヴィッツ平和博物館の山田正行さん「アウシュヴィッツ平和博物館の取り組み」

2. 女たちの戦争と平和資料館の池田恵理子さん「敗戦から60年目に建てた アクティブ・ミュージアム『女たちの戦争と平和資料館』」

3. 東京大空襲・戦災資料センターの梶慶一郎さん「東京大空襲・戦災資料センターの増築」

4. NPO法人松代大本営平和祈念館の馬場修さん「戦後60年周年 松代大本営平和祈念展の開催」

5. NPO 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会の野間美喜子さん「NPO 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会の活動」

6. 立命館大学国際平和ミュージアムの岡田英樹さん「立命館大学国際平和ミュージアムのリニューアル」

7. 平和友の会の川畑康郎さん「今年も広がる新しい交流の場」



erico

8. 平和人権子どもセンター・教科書資料館の吉岡数子さん「教科書資料館の8年の歩み」

9. 平和資料館「草の家」の金英丸さん「戦後60年、戦争の記憶をめぐって…」報告2.8は3日に報告されます。

報告時間は1人30分以内です。報告者は報告レジュメ・資料などは各自ご用意ください。

新たに報告をご希望の方は立命館大学国際平和ミュージアムの山辺あてに11月中に申し込みください。

交流会では、平和のための博物館・市民ネットワークの会計・事業報告をするとともに、「平和のための博物館・市民ネットワーク」のあり方や運営の仕方などについて討論する予定です。是非ご意見をお寄せください。

またリニューアルされた立命館大学国際平和ミュージアムの見学会も、3日10時からと、4日14時から開催します。いずれも平和友の会の方にガイドをしていただきます。

3日の18時30分から、近く「シーフード」において懇親会を予定しています。懇親会費は4000円程度です。

書籍『太平洋戦史館 LEST WE FORGET. 』 (10年の活動とその記録)

1995年にスタートした小さな会報が10年後の今年、50号に達して1冊の本になりました。

10年の活動…それは、戦争を風化させない「忘るまじ」の活動、平和のための資料展示と講演活動「語り継ごう次の世代へ」、そして「プラスの国際交流」の活動、この3つの活動が、本の副題である LEST WE FORGET に、またⅢ部構成の柱になっています。

終戦60年という節目の年であればこそ、世の中の空気が確実に重苦しく迫ってきている今だからこそ、戦後処理と平和の問題について、仕切りなおしていっしょに頑張りましょうという願いを込めて、この本を制作しました。

たとえばニューギニア戦線…日本の南5000kmに位置するニューギニア島は、現在は島の半分がパプアニューギニア、西側がインドネシア共和国パプア州、2つの国に分かれています。太平洋戦争の激戦地として、戦没した日本兵はニューギニア・ソロモン戦域だけで299,400柱といわれています。この地でどれだけ多くの人々が命を奪われたか、いまだ野晒しのまま遺体が放置されている現実。戦後60年が経過し忘れられたままの犠牲者たちに、今私たちができることは何か、戦争を繰り返さないためにできることは何か…まずこの現実に向けてください。

本の構成

I部 忘るまじ…

1章 戦争は過去の話ではなく現在に続いている。基本となる考えとは？

2章 遺骨が語る戦後処理。1999年から3回遺骨収集を実現させた成果と問題点

3章 戦没者追悼のあり方を問う。戦没者不在の靖国論争に終止符を。

II部 語り継ごう次の世代へ…

4章 戦史館展示室

5章 ピースおおさかの特別展へ

6章 平和のための資料館を訪ねて ピースおおさかからベルギーまで

III部 プラスの国際交流を…かつて軍靴で踏みじった地にプラス交流を生み出す

7章 会員の草の根活動 カウラ市へ 中国で小学校建設 高野山鎮魂のフラメンコ

8章 現地調査を重ねて

9章 耕せ国際交流 ビアク沖地震の支

援と協力

IV部 あなたも太平洋戦史館にご参加ください。

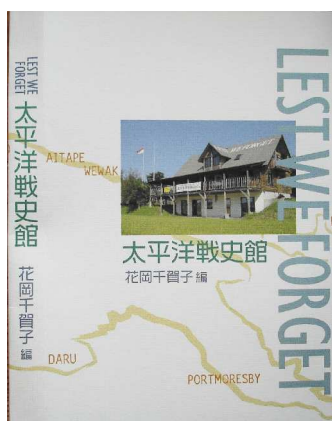
題名『太平洋戦史館』 編集 花岡千賀子
発行者岩渕宣輝 発行所 NPO 法人太平洋戦史館

226 ページ 写真 148 枚。 本をご希望の方は戦史館へ直接お申し込みください。

1冊の場合…2300円（消費税込み価格 2000円＋送料 300円）2冊以上は送料無料です。

申し込み先…郵便振替 口座番号 02310-5-23158 口座名 太平洋戦史館基金
通信欄に、書籍『太平洋戦史館』注文と明記してください。

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575



「女たちの戦争と平和資料館」と

アクティブ・ミュージアム運動

館長 西野瑠美子

去る八月一日、東京都新宿区西早稲田に、「慰安婦」問題を記録する「女たちの戦争と平和資料館」がオープンした。「慰安婦」問題をテーマにした記念館としては、韓国広州市にある「ナナムの家歴史館」が知られているが、この資料館は日本で初めて「慰安婦」問題に特化した「記憶の拠点」である。

ここ数年来、日本社会には「慰安婦」問

題を「でっち上げ」とする否定論が後を絶たない。97年度版中学歴史教科書全社に記述されていた「慰安婦」問題は、ついに本文に記述される教科書は日本書籍新社一社のみとなり、「慰安婦」という言葉はどの教科書からも消え去った。文部科学大臣が「教科書から消えて良かった」と発言しても、何の責任も問われない状況は、日本社会が「慰安婦」問題の真実と責任に背を向け始めていることを如実に表している。こうした状況の中で、「慰安婦」問題を知る若い世代はめっきり少なくなった。日本社会から、「慰安婦」問題の記憶が消えつつある。戦後60年にオープンを決意したのは、こうした日本社会の状況に対して、黙ってはいられないと考えたからだった。

そもそも資料館建設を語り始めたのは、2000年に東京で開かれた日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷(以下「法廷」)が開催された後のことだった。「法廷」には世界各国から64名の「慰安婦」被害者が参加され、その壮絶な体験を語られた。フィリピンのマキシマ・レガラさんは戦後、その体験を隠し続けてきたことについて、「黙っているより仕方なかった。心が痛み、心に穴が開いているようだった。正義はいつも私たちを置いてきぼりにした」と、沈黙の戦後の苦悩を訴えられた。

彼女たちは、日本軍「慰安婦」制度の被害者だ。にも関わらず彼女たちはその体験を「恥」とする貞操イデオロギーの観念が根強い社会のなかで、沈黙を守らざるを得なかった。「慰安婦」だったことが夫に知られたある女性は、「(日本軍の)残りものなら犬の方がましだ」と責められ、また、ある女性は夫がその過去を受け入れられず、離婚に追い込まれた。「こんな体では結婚することはできない」と、独身で生きてきた女性もいる。このように、彼女たちの被害は戦

時下だけではなく、戦後にも引き続いてきた。

女性国際戦犯法廷は、被害者を「不名誉な女」として社会の周縁に追いやってきたジェンダー不正義を明らかにし、彼女たちは「恥」の存在ではなく、日本軍による性犯罪の被害者であることを当時の国際法の下で日本軍の責任を明らかにした。「責任者処罰」は、遅すぎた正義の実現であったが、「正義」に向き合った「法廷」は、被害者に大きな勇気と励ましを与えた。「天皇有罪」の判決に体を震わし、涙を流して喜ばれた被害者女性たちの姿は、今思い出しても臉が熱くなる。

「法廷」の準備過程で集められた膨大な資料や、被害者の勇気と、日本の加害をきちんと歴史に残したい、それは、「慰安婦」問題に取り組んできた女性たちの熱い思いだったが、当時は建設資金もなく、実現は叶わぬ夢と思われた。

ところが 2002 年 12 月、「法廷」を思い立ち、実現に大きな力を尽くした VAWW-NET ジャパン代表の松井やよりさんが、突然癌に倒れ、たった二ヵ月半の闘病生活の果てに亡くなった。病の床で彼女が言い残した最後のメッセージは、何とか仲間たちの力で資料館建設を実現してほしいということだった。そして、建設実現のためにと全財産を寄付されたのだ。それから二年半、私たちは資料館建設委員会を立ち上げ、「なぜ、記憶するのか」「どのような資料館にするのか」の議論を重ね、ついに戦後六十年の夏、オープンにこぎつけたのである。

資料館の入り口の壁には、十カ国の被害者 134 名のポートレートが飾られている。顔を出し、その体験の公開を許諾された女性たちだ。しかし、その後ろには、まだまだ顔を表すことのできない沢山の女性たち

がいる。ポートレートの前に立つと、二度と同じ過ちを繰り返してはならないという多くの女性たちの声が聞こえてくるようだ。

資料館は年に二回、特別展を行なう予定だが、現在は「女性国際戦犯法廷のすべて」展を開催している。館内にはアジア各地に設置された慰安所を示す慰安所マップの模型(大阪の千代田高校の生徒さんたちが作成)や、「慰安婦」問題を中心にした年表、被害者や市民の数々の闘いの記録のパネルなどが展示され、「慰安婦」関連の書籍や資料や「慰安婦」裁判資料の閲覧、ビデオ視聴のコーナーなども設置されている。また、館内の一番奥には松井さんが使っていた机と椅子、本箱が置かれ、新聞記者時代に書いた全ての記事がファイルに所蔵される松井コーナーがある。

「女たちの戦争と平和資料館」は「アクティブ・ミュージアム」である。資料館を単なる情報提供の場にするのではなく、被害者との出会いの場、日本の加害に向き合う場、そして、この問題を「知る」だけでなく、知ってからどうしたらいいのか、どうしたら非暴力・平和な社会を実現することができるのかを考え動き出す場、「活動の拠点」にしていきたいという思いが、「アクティブ・ミュージアム」という言葉に込められている。

アクティブ・ミュージアム運動というのはドイツで市民が取り組んだ「過去を取り戻す営み」、市民意識を変え、過去の歴史を記憶していく運動であるが、ドイツの市民の取り組みから学ぶものは実に大きい。

日本の各地には、加害の歴史を刻む資料館がいくつかある。それらの資料館が連帯し、日本におけるアクティブ・ミュージアム運動をさらに広げていきたいと願っている。

交通案内

高田馬場駅から徒歩 20 分

高田馬場駅からバス 12 分（「学 02 早大正門行き」で『西早稲田』下車）

地下鉄東西線 早稲田駅から徒歩 5 分



〒169-0051

東京都新宿区西早稲田 2-3-18 AVACO ビル 2F

電話：03-3202-4633 FAX：03-3202-4634

<http://www.wam-peace.org/>

「松代に平和祈念館を！」の願いを一步すすめるために。

NPO法人松代大本営平和祈念館理事
北原 高子

長野市松代町は、かつて六文銭の旗をなびかせた真田氏 10 万石の城下町です。侍屋敷や寺院などがたくさん残っており、近年、国史跡の松代城跡や重要文化財の武家屋敷などが復元され、趣ある町並みに整備されました。輩出した人物も多く、幕末の佐久間象山、「カチューシャの唄」で知られる近代の女優松井須摩子もこの町の出身です。

ここ松代にアジア太平洋戦争末期の 1944 年秋、戦争指揮の最高機関である大本営を首都東京から移転しようと、大地下壕が掘削されはじめました。敗戦色の濃くなった日本が、本土決戦と「国体護持」を目的とした計画で、松代の 3 つの山（象山、舞鶴

山、皆神山）を中心に延べ十数キロにわたる地下壕が掘られ、長野市周辺にも関連施設が構築されて、大本営はじめ天皇、皇族、政府機関、日本放送協会（現在の NHK）、印刷局、通信施設など 国家の中枢を移す計画でした。大本営の建設ということは極秘で、「松代倉庫工事」としてすすめられたこの工事には、6000 人以上の朝鮮人が動員されて過酷な労働に従事していました。

この地下壕を平和のために保存し、同時に関連する資料を展示して学習交流を深めるために「平和祈念館」を設立したいとの高校生の願いを機に市民も運動をすすめてきましたが、一昨年より「NPO 法人松代大本営平和祈念館」として本格的に取り組んでいます。祈念館設立にはまだまだクリアしなければならない課題が多く、実現には至っていませんが、戦後 60 周年の節目の今年、地元の公民館の一室をお借りして、ささやかながら「松代大本営平和祈念展」を開催することになりました。

調査・研究の先駆者である長野俊英高校郷土研究班より、壕関連の遺物などをお借りし、「松代大本営の保存をすすめる会」所蔵の品物、パネル、写真などの展示をして大本営造営の背景や全体像を多くの方々に知っていただき、さらにこの展示をきっかけに地域の方々の体験や資料を掘り起こして記録・保存していこうと考えて企画しました。

松代大本営の掘削工事が開始されたのは 1944 年 11 月 11 日です。これにちなんで毎年私たちは「11・11 松代大本営工事犠牲者追悼・平和祈念のつどい」を行なっています。

今年はこのつどいに合わせて 11 月 11 日から 3 日間、上記祈念展を開催します。

「平和祈念館」建設に向け、一步でも半歩でも近づけたらと、願っています。

〒380-0928 長野市若里 3-5-5 きぼうの家
松代大本營の保存をすすめる会

Tel&Fax : 026-228-8415

<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/>

今年も広がる新しい交流の場

京都 平和友の会 川畑康郎

戦後 60 年の節目の今年、四つの都市（スペインのゲルニカ、中国の南京と北京、台湾の台北）へのツアーとアウシュヴィッツ生存者の証言をきく集い（福島、白河）に参加する機会に恵まれました。

そのいきさつはともかく、それぞれの出会いの一端です。

§ スペイン・ゲルニカ(5月)

言葉の大きな壁があったにもかかわらず、大きな援助を頂いて、第五回世界平和博物館会議の「平和と文化」の分科会での報告を終えることができました。

報告は混声合唱組曲「悪魔の飽食」(以下「悪魔」と世界の子どもの平和像・京都のこを中心)、平和のケルンの一つを創る取りくみについてです。

会議では、日本の平和博物館(運動)は、量的にも質的にも極めて大きな役割を果していること、言葉が通じなくても通じ合い伝わりあうもの、それが文化であるということ強く思いました。

多くの出会いがありましたが、特筆すべきは李基恒夫妻(韓国)との出会いでした。氏はオランダのハーグに住まれ、45年その地に建設されたイ・ジュン博物館(※)の館長をされています。

「2年後の07年、事件の100周年の記念行事をする、川畑さんあなたのやっている合唱(悪魔)を「アリラン」と一緒に歌ってもらえないか」——ビックリしました。

帰国後、早速「悪魔」の全国合唱団事務局

に連絡した結果、合唱団のアウシュヴィッツ公演とドッキングでき、公演の日程も決まったのです。後述する「悪魔」の中国公演の話も次回の海外公演として広く紹介され、大変喜ばれました。

※1907年のいわゆる「ハーグ密使事件」(日本の朝鮮植民地政策への抗議のため韓国皇帝が3人の特使を派遣した)で急死したイ・ジュン氏をしのんで韓国政府が現地に建設。建設以来2年ごとに式典が開かれ3回目(99年)日本人として初めて安斎先生が招待されました。

§ 中国・南京と北京(8月)

第1回(98年ハルピン・瀋陽)に続く「悪魔」の第2回中国公演でした。合唱団、サポーター、スタッフあわせて200人近い訪中団でしたが、しきたりや習慣などの障壁をのりこえて公演は、南京、北京の2会場とも「こんな日本人がいたのか」と大成功でした。鳴りやまぬ拍手、立ち去り難い聴衆など2会場の共通の雰囲気はその証の一つです。

「日本から来た私たちのグループとたまたま訪れていた中国の一般民衆が肩を並べて南京の記念館(敷地内の平和大鐘のミニレプリカがリニューアルされたミュージアムに寄贈されています)の同じ展示を見ている姿こそこれからの平和の象徴とおもう」という森村誠一名誉団長のコメントも人々の心をとらえました。

現地中国のマスコミでは大きく報ぜられましたが、日本でも映像が流れたことを帰国後知りました。日中交流の確かな基盤に貢献すると思います。

§ 台湾・台北(9月)

「この100年は最初の50年は日本の支配による時代、後の50年は国民党の支配による時代」——台湾の人がよくいう言い方

だそうですが「日本の方がまだまし」とする
とらえ方があるようです。

そのことにも関わってエピソードを一つ
だけ紹介します。

ゲルニカの会議で出会った台湾の曹欽栄
さんに 2・28 記念館を案内してもらいまし
た。かつて、館の副理事長もされていただ
けあって丁寧な説明でした。国民党政府の
行動などがよくわかりました。夜、国民党
政府によって逮捕、投獄された経験をもつ
陳さんと交流の場を持ちました。その時、
陳さんから「靖国神社に合祀されているこ
とに抗議する台湾の先住民は間違ってい
る」という発言が飛び出し、ビックリしまし
た。複雑な気持ちになりました。

§ アウシュヴィッツ生存者講演会(10月)

企画したのはアウシュヴィッツ平和博物
館(福島白河市)、来日したのはA・コヴァル
チク氏。1921 年生まれ。19 歳で収容所に
収監。42 年脱走に成功という経歴。10 月下
旬福島県三ヶ所で講演会を開かれその一つ
に参加しました。(因みに来年「悪魔」の福島
公演の実現を期待しているのです)

以上、各項とも多少書き残していますが、
とりあえずの報告とします。

教科書資料館 8 年の歩み

平和人権子どもセンター・教科書資料館

吉岡数子

≪「教科書が語る戦争」をテーマに教科書
パネル(11 セット・216 枚)作製≫

第三次教科書攻撃・平和資料館攻撃に抗
して私設平和人権資料館・併設教科書資料
館を設立して 8 年。堺市立平和と人権資料
館嘱託勤務時に作製した朝鮮侵略・中国侵
略・沖縄歴史パネルなどに教科書を挿入し
たが、教科書資料館併設以後は「教科書が

語る戦争」をテーマに第二の墨塗りを許さ
ないために、教科書研究と教科書パネルの
作製に専念した。「子どもであっても加害者
だった」「自分で判断できる子どもたちに」
「戦時の教育のような一方的な強制はした
くない」という思いを託すことができるの
がパネル作製だからだ。

【1998 年度『戦時下の教科書パネル』『ア
ジアの教科書パネル』など作製】

15 年戦争開始時の第 4 期国定教科書から
敗戦直後の第 5 期国定教科書の墨塗りまで
の戦時下の教科書を体験を通してパネル化
(内地教科書パネル 12 枚・外地教科書パネ
ル 12 枚)。アジアを訪ねて集めた教科書の
日本の侵略・植民地支配の記述パネル(32
枚)も作製した。

【1999 年度『教科書が語る「日の丸・君が
代」の歴史パネル』など作製】

「周辺事態法」「国旗・国歌法」「教育関連
法」制定などと相まって戦争への道を歩み
つつある国の政策とも呼応し、教育現場へ
の日の丸・君が代の強制が始まった。当教
科書資料館にある明治から現行までの
6300 冊を軸に日の丸・君が代歴史パネル
(26 枚)作製。

【2000 年度『戦後の教科書の中の朝鮮・中
国侵略の記述パネル』など作製】

戦前・戦中の皇国史観国定教科書だけ
でなく、戦後の教科書も日本の侵略・植民地
支配の事実は隠蔽・修正・削除されてきた。
戦後 50 年を経てやっと侵略と加害の史実
が記載されるようになったが「自虐史観」
の声さえある。そこで作製したのが表記パ
ネル(14 枚)。

【2001 年度『日本の教科書の歩みパネル』
『戦争と少国民教科書パネル』など作製】

21 世紀最初の出前展示は、2001 年 1 月
13 日～2 月 25 日まで広島で開催された「教
科書が語る 21 世紀展」だった。この期に「日

本の教科書の歩みパネル」(14枚)作製、「戦争と少国民パネル」(27枚)補充作製した。このパネル展は一年に互って11都府県を巡回した。

【2002年度『「つくる会」他社教科書・戦中の国史比較検証パネル』など作製】

私は戦中「満州官製教科書・皇国の姿(国史・地理の合科)」と内地の国史教科書を二度丸暗記させられた。敗戦後「間違っている所を消す」と全ページ墨塗りをした国史教科書とそっくりの『つくる会』教科書が検定合格。直ぐ比較検証パネル(24枚)を作製した。

【2003年度『心のノートと修身パネル』『心のノートと戦時の日記パネル』など作製】

2002年事実上の国定教科書「心のノート」が全国の小・中学生に無償配布された。戦中少国民に仕立て上げられた私は「心のノート」が「尋常小学校修身書巻一」に類似していて、毎日書かされた日記の手法と繋がっていることに気づき上記パネル(計13枚)を作製。

【2004年度『「教科書問題」後の小・中教科書比較検証パネル』など作製】

「つくる会」教科書の使用は0.039%にとどまったが、現行の中学校の歴史教科書や小学校音楽教科書(文部省唱歌の復活など)などは「つくる会」教科書の検定合格の影響を受け、明らかに後退している。急遽社会科・音楽を中心に比較検証パネル(24枚)を作製。

【2005年度『教科書の中の女性差別の記述パネル』など作製】

学校の中の女性差別をしつこく提起することが私の32年間の教育実践の核の一つになった。「なぜ女子だけが」の教材化や教科書点検(家庭科教科書など)の延長として明治の教科書から「つくる会」中学校公民教科書までの女性差別の記述パネル(8

枚)を作製した。

【2006年度『「満州」と「内地」の教科書比較検証パネル』など作製予定】

軍国主義・超国家主義の色彩が強い内地の教科書よりどう見ても科学的で民主的にさえ思えた「満州官製教科書」は、実は巧みな植民地支配政策の一環だったのだ。その手法が今再び甦ろうとしている。(「つくる会」改訂版歴史教科書と「皇国の姿」の類似など)

《植民地朝鮮で生まれ「在満少国民」に育てられた私が今伝えたいこと》

今の小学校の子どもたちは、私の12歳までの「満州」と同じ状況で育っている。「在満国民学校」の朝礼で、私たちは毎日「大東亜共栄圏」「五族協和」「王道楽土」「八紘一宇」「聖戦」「神国日本」を教え込まれた。新しい少国民づくりに抗して、戦争と教科書の繋がりをきちんと次世代に伝えなければと思う。教科書が戦争遂行の道具になった事実をかつての少国民の体験を通して戦中の教科書や上記教科書パネルと侵略・植民地支配跡アジアウォッチングパネル(1200枚)などを提示しながら出前展示・出前講話を続けたい。

前回の「ミュージズ」で平和人権子どもセンター・教科書資料館のファックス番号が違っていました。正しくは、072-227-1453です。ここに訂正するとともに、吉岡数子様ならびに読者の皆さんにお詫び申し上げます。御指摘くださった岩本吉剛様、ありがとうございました。なお11月3日から、電話とファックスの番号が同じになりますので、よろしくお願い致します。

Tel & fax: 072-229-4736

板東俘虜収容所をテーマに映画化が決定

鳴門市ドイツ館副館長 中野 正司

板東俘虜収容所のドイツ兵俘虜と地元の人々との交流を描いた映画が製作されることが決まりました。去る6月10日に徳島プリンスホテルで、企画発表会が開催され、その席上、東映株式会社の岡田裕介社長と株式会社シナノ企画の宮川社長から、監督は『きけ、わだつみの声』の目黒昌伸氏、脚本は古田求氏を起用し、2006年6月のワールドカップ開幕時を目標に上映することが発表されました。

映画のタイトルは『バルトの楽園』。「バルト」とはドイツ語でヒゲの意味があり、板東収容所の所長であった松江豊寿大佐の立派なヒゲと、ヒゲを生やしたドイツ兵俘虜が多かったことを併せた意味で、「楽園」は、この収容所が俘虜たちの楽園であったこと、ベートーヴェンの「第九交響曲」をはじめとした様々なコンサートが演奏されたことからあえて「がくえん」と読ませたことなのです。

映画は、青島戦争の後、厳しい環境にあった久留米収容所の俘虜たちが板東へ移るところからはじまり、松江所長らのヒューマニズムあふれる取扱いや、地元の人たちとのあたたかいもてなしのお陰で、交流が徐々に深まり、最後に地元の人々を招待しての「第九」の演奏会で締めくくられるというストーリーです。

この映画は、今年の『北の零年』『男たちの大和』に続く大作で、当館近くに、収容所のバラックなど、当時のものの3/4位の建物を復元するという大規模なロケセットの建築を計画しています。

また映画の製作に当たっては、全国的に情報発信できる素晴らしい機会だとして、徳島県と鳴門市も全面的に支援をすることになりました。その一環として、撮影等に地元での支援を行なうため、先述の企画発表の一週間前に県内の有志で「バルトの楽

園・誘致支援委員会」が結成され、鳴門市でも7月8日に「バルトの楽園・鳴門ロケサポート協議会」が結成されました。これらの組織は、映画撮影時のエキストラの募集や、出演者やスタッフへの炊き出しなど様々な支援の他に、ロケセット跡地の有効利用なども計画するそうです。

これからキャスティングが決定され、11月頃には当地でロケ撮影も開始されることですので、その時期には、是非とも見学にお越しください。『バルトの楽園』のロケセット跡地の有効利用なども計画するそうです。

(館報「ルーエ やすらぎ」第2号より)

Tel: 088-689-0099 FAX: 088-689-0909

doitukan@city.naruto.lg.jp

<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/index.html>

平和資料館「草の家」

事務局長 金英丸

平和資料館・草の家が事務局を務めている夏の平和行事「2005 ピースウェイブ in 高知」が行なわれました。

恒例の「戦争と平和を考える資料展」以外にも、高知で空襲が始まった7月4日の夜中に犠牲者を追悼する集いを初めて企画しました。高知市「平和祈念の碑」にて60年前、高知空襲が始まった午前0時すぎに犠牲者を追悼、平和憲法を守る決意を込めて9条のろうソクを灯しました。追悼集会ではピースライブ、憲法の朗読、空襲体験の証言なども行なわれました。

また、中学校の教科書採択を迎えて特別企画として、「NO!歴史歪曲、YES!東アジアの平和!」をテーマに教科書展を市民図書館で行ないました。

戦後60年となる節目の年を迎えて、高知の戦争と平和運動の歴史を総合的に捉えた

『高知・20世紀の戦争と平和』を出版しました。

去年から始まった連続講座、「草の家平和講座」も続けています。今年は「“反日”デモと教科書問題」、「沖縄から考える平和問題」、「安重根裁判と高知県人」、「現代に生きる植木枝盛憲法草案」のテーマが取り上げられました。

草の家で活動する若者が中心になって、旧日本軍性奴隷問題の解決を求める、「全国同時証言集会：消せない記憶—日本軍“慰安婦”被害女性を招いて」を開催しました。高知では韓国から朴玉善（パク・オクソン）ハルモニを招いて証言集会を行ないました。同日には若者を中心に約300名が参加しました。

第1～3週金曜日（5時～7時）、最終の日曜日（2～4時）、帯屋町で米英のイラク侵略反対、自衛隊撤退を訴え市民行動、ピースライブを続けています。

平和資料館・草の家

780-0861 高知市升形9-11

Tel. 088-875-1275, 821-0263

Fax. 088-821-0586

GRH@mal.seikyuu.ne.jp

<http://hal.seikyuu.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

第9回戦争遺跡保存全国シンポジウム長崎大会報告

第9回戦争遺跡保存全国シンポジウム長崎大会が、8月20～21日に長崎市で開催されました。基調報告は全国ネット代表村上有慶さんが行ない、戦争体験を語る事が「口を開くのが難しい」時代から「戦争の痛みを共有することが難しい」時代へと変

わってきており、証言者・語り部が「言葉が心に届かない」と感じるようになってきている状況、さらに体験者の高齢化が進行する中で、戦争体験の継承は「人から物へ」と移行せざるを得ないこと、その時大切なことは、戦争遺跡に何を語らせるのかということなど指摘されました。

詳細は、「松代大本営の保存をすすめる会ニュース」第178号と「浅川地下壕の保存をすすめる会ニュース」第48号で知ることができます。

浅川地下壕の保存をすすめる会

〒193-0821

東京都八王子市川町244-93

日高 忠臣 気付

Tel & Fax 0426-52-0552

<http://park21.wakwak.com/~asakawa/>

戦争遺跡保存全国ネットワークにご参加ください

戦争遺跡の保存と史跡・文化財への指定を求める運動、戦争の真実を掘り越し記録する運動など、全国で平和のために活動されているみなさん、みなさんの粘り強い活動に敬意を表します。

1997年7月、各地で戦争遺跡を調査・研究し、戦争の記憶を未来に伝えるための史跡・文化財として保存しようと活動している仲間が長野市松代町につどい、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」を結成しシンポジウムを開催しました。また翌98には第二回シンポジウムを、沖縄県南風原町で開催しています。二回のシンポジウムを通じ、全国各地の戦争遺跡の状況や保存運動の現状と課題、史跡・文化財指定に向けての運動の方向性が明らかになり、戦跡考古学研究者との協同による戦争遺跡の科学的な調査

の科学的な調査の必要性、「平和のための保存」という視点の大切さ、行政を動かす幅広い国民世論の形成の必要、などが確認されました。「ネットワーク」は保存運動に関する情報の交換、行政に対する戦争遺跡の保存と史跡・文化財指定の働きかけ、シンポジウムの開催や研究誌の発行による研究・交流の前進と国民世論の形成などを目的に、団体・個人の連絡協議機関として結成されたものであり、これまで全国各地で粘り強く進められて来た保存運動を結び付け、手をたずさえてさらに前進をはかろうとするものです。全国で戦争遺跡の調査・保存に取り組まれているみなさん、戦争の真実を記録し後世に正しく伝えようと努めておられるみなさん、「規約」「アピール」をご覧ください、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」にご参加ください。

記

1. お願いしたい事項

①ネットワークにご参加ください。(団体年会費 4,000円 個人年会費 2,000円)

②各団体では、団体の会員のみなさんにネットワークへの参加をよびかけてください。

③戦争遺跡に関する調査研究、保存の運動などにたずさわっておられる方をご紹介します。

④各地の戦争遺跡に関する資料や情報、団体の活動に関する資料(会報・研究誌など)をお寄せください。(ご寄贈いただければ幸いです。ネットワークの資料として保存するとともに、会報でも紹介します。)

2. ネットワークの活動

①「戦争遺跡保存全国シンポジウム」を開催します。(既開催地:長野・沖縄・京都・高知・神奈川・山梨・大分・千葉・長崎)

②会報(通信)の発行は年4回を予定しています。(全会員にお送りします)

③戦争遺跡に関する「研究誌」の編集を予定しています。

④戦争遺跡の保存、史跡、文化財への指定のため、文化庁をはじめとする行政への要請活動を行ないます。

《 ネットワーク事務局 》

〒380-0928

長野市若里 3-5-5「きぼうの家」松代大本営の保存をすすめる会気付

TEL/FAX 026-(228)8415

<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/isiki/nituto.htm> より

岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

「銘心会南京」第20次訪中団に合流して、8月11日～18日、上海－南京の旅に会員4名と公募派遣学生2名が参加しました。当資料館としては第5次南京友好訪中で、学生派遣事業《日中友好・希望の翼》は3回目でした。日中関係が政治・外交的に冷え込むなか、南京師範大学での日中学生交流討論会はとりわけ意義深いものでした。報告集は「銘心会南京」との共同発行で12月に出版される予定です。

9月17日～22日、瀋陽－ハルビン訪中団(理事3名、会員1名)を派遣し、平頂山殉難同胞遺骨館、撫順戦犯管理所、虎石溝万人坑などを訪ねるとともに、9・18歴史博物館には長崎平和資料館が所有する旧「満州国」における抗日戦士虐殺写真を提供して今後双方での検証研究を約束し、侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館とは9月21日、友好館提携書を取り交わしました。七三一部隊罪証陳列館との提携は両館の人的物的交流や共同研究を約するもので、訪中団は「731部隊罪証展」の実現を最初の課

題として努力することを表明しました。

10月1日は当資料館の設立10周年に当たり、西野瑠美子さん（「女たちの戦争と平和資料館」館長）に記念講演をお願いしました。演題は「本当のことを伝えたい—平和資料館の意義と役割—」で、歴史の隠蔽と歪曲がはびこる現状を許さず、未来のためにも過去と向き合うことの重要性を日常的に訴える市民の自立した平和資料館の使命を学び、また励まされました。この記念講演会に「平和資料館・草の家」から山根和代さんが遠路参加してくださり、世界各地の平和資料館との情報交換や連帯に大きく道が開かれたことも特筆すべきことです。

12月上旬の第6回「南京大虐殺生存者証言長崎集会」に向けて、現在、熊本日中友好協会と連携して取り組んでいるところです。

NPO 法人岡まさはる記念長崎平和資料館 設立10周年記念

資料館会報「西坂だより」合本 限定頒布

反戦平和と反差別の闘いに生涯を賭け、長く隠されてきた朝鮮人被爆者の実態調査を主導してきた故・岡正治牧師の遺志を継いで、一九九五年に設立された「岡まさはる記念長崎平和資料館」は、今年（二〇〇五年）十月に設立一〇周年を迎えました。これを記念して、資料館の会報である「西坂だより」第一号～第四〇号を合本にして限定頒布することとなりました。資料館を訪れた人々の声や資料館が主催したさまざまなイベントの記録、日々の日誌などが掲載された「西坂だより」は、資料館の歩みの忠実な記録です。

行政や企業などから一切の支援を受けず、市民の力のみで設立、運営している独立独歩の平和資料館の紆余曲折、試行錯誤の一〇年の歩みは、ごく普通の市民でも、平和のため

にこんなこともできるのだ、という勇気を多くの人々に与えるものと自負しています。この機会に、是非「西坂だより」合本をご購入ください。

「西坂だより」合本（3分冊）

●B5 サイズ●総ページ数 664●限定製作 50
セット

◎その1（第1号～第20号）1995年8月～1999年4月

◎その2（第21号～30号）1999年7月～2002年2月

◎その3（第31号～40号）2002年7月～2005年7月

●価格：3冊セットで2000円（分冊販売はいたしません）

※別途送料が450円かかります。

●購入を希望される方は、住所・氏名・電話・メールアドレスを記載の上下記の岡まさはる記念長崎平和資料館まで葉書、FAX又はメールでご連絡ください。折り返し、合本と振込み用紙をお送りします。

〒850-0051 長崎市西坂町9-4

電話&FAX095-820-5600

Mail→tomoneko@land.linkclub.or.jp

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen/annai.html>

海外のニュース

ベルリンにおける平和のための博物館

フィリップ・ゾンタック博士

Philipp Sonntag

10年以上前に山根和代さんは家族でベルリンを訪問し、私は「平和のための博物館」を訪問する案内をしました。そこでの最近の活動について、報告します。

トミー・スプリー氏の反戦博物館は以前より新しく大きい部屋で展示をしていました。彼は地元の学校の生徒が来ればドイツ語で、また日本を含め遠い国から訪問者があれば英語で案内をされています。所在地は次の通りです。

Anti-Kriegs-Museum e.V. Bruesseler Str.
21D-13353 Berlin

Tel: 0049 030 45 49 01 10

毎日開館 16.00 - 20.00 (日曜日と休日も)
団体を訪問する場合は、電話をして下さい。

Tel: 0049 030 402 86 91

Anti-Kriegs-Museum@gmx.de

反戦博物館は、創立 80 周年記念のお祝いをしました！そこはベルリンの地図に書かれており、創設者であるエルンスト・フリードリッヒ (Ernst Friedrich) に因んだ公園の向かい側にある通りに、両手で銃をへしおっている彫像があります。フリードリッヒは反戦博物館を創設しましたが、ファシストの破壊のためにスイスへ逃亡しました。フリードリッヒの言葉は、ホームページで読むことができます。

www.anti-kriegs-museum.de

ドイツは共和国、と私は思った。
ドイツには平和が必要である、と私は思った。

平和な共和国には平和博物館があるべきだ、と私は思った。

しかし平和主義の共和国には、このような平和の活動のためのお金はなかった（軍艦の方がもっと重要で高価だが）ので、「反戦博物館」の開設という馬鹿な考えがひらめいた。ドイツの真ん中にプロシアの中心地に、ベルリンの真ん中に（警察本部から 5 分離れた所に）である。

(エルンスト・フリードリッヒ 1935)

それからエルンスト・フリードリッヒはベルギーへ行き、再び平和のための博物館を創りました。しかしまもなくファシストがやってきて、それを破壊してしまいました。1925 年の開館以来、反戦博物館は若者へ働きかけてきましたが、若者は過去の間違いや戦争から学ぶべきなのです。その博物館は出会いと相互理解の文化センターとして、大学の平和研究者と共に平和運動を促進することに関心を持っています。ここでは戦争の影響や平和主義者の迫害に関して沢山の写真や資料が展示されています。

地下には本物の防空壕があり、どのようにして生き抜こうとしたかがわかります。実際には 15 人の人々が地下壕に入っても、寝ることはできませんでした。地下壕へ降りるとき、壁に広島原爆の影響を示した写真をたくさん見ることができ、訪問者は被爆者について学ぶことができます。反戦博物館は、トミー・スプリー氏によって受け継がれ、学校や訪問者に影響を与えています。最近では平和のための博物館のネットワーク作りを進めています。

ベルリンにはその他にも、平和のための博物館があります。私はベルリン南部のシュテグリツ (Steglitz) に住んでいますが、戦争が地域に与えた影響、ファシストのユダヤ人迫害に関する写真の展示をしています。

ユダヤ人センターでは「アウシュヴィッツの絵画」の展示をしていました。被爆者が描いた絵画のように、被害者の苦しみがわかり、大変印象的でした。「テロの構造」という展示がベルリン市のマーティン・グロピウス建物付近にあり、SS国家、爆弾と破壊、1945年のベルリン、戦後の政治的再編、戦犯の不完全な処罰などを展示していました。

ケーテ・コルヴィッツ博物館 (Kaethe Kollwitz Museum) があります。4月から6月まで、彫刻家である彼女の1945年までの活動に関して展示がありました。彼女は戦争が終わる少し前に亡くなりましたが、エルンスト・フリードリッヒの反戦博物館に貢献をしました。1945年4月16日に平和のための困難な活動をするようにアピール文を書いています。

クレウズベルグ博物館 (Kreuzberg Museum) では、300年間にベルリンに行った難民に関する資料があります。アリエルテン博物館 (Alliierten Museum) では5月から9月まで米兵、英国兵、仏兵に関する写真展があり、戦争による破壊を報道したラジオ放送を流していました。地域では展示、講演、討論、戦後60年ベルリンにおける記憶に関する取り組みなど、様々な取り組みがある中で、ほんの少し紹介してみました。ドイツの兵士がアフガニスタン、コソボ、イラクのような戦争に関わるべきかどうか、議論されています。ヒットラーの戦争について広範な人々が知らなければ、「防衛」問題に関する討論はもっと少ないでしょう。ベルリンの博物館では、第二次世界大戦の苦みの記録だけでなく、今日の諸問題を取り上げ、議論をしています。帆船博物館では核兵器の影響について展示し、兵士さえもやってきてトミー・スプリー氏の話に耳を傾けています。もしエルン

スト・フリードリッヒが生きていたら、どんなに考えるでしょうか。

イギリスの平和博物館

いくつか移動展示物がありますので、関心のある方はホームページを開いて御覧下さい。

<http://www.peacemuseum.org.uk/>

A Vision Shared: 20世紀の平和運動の歴史第一次世界大戦から今日までイギリスの平和運動で使われた絵画、ポスター、旗などを見ることができます。A1サイズのパネルが48枚あり、貸出料は無料です。

Such A Journey: 今日ブラッドフォードの人々にとって平和とは何かを考えさせる写真や絵画などの展示物があります。8歳から80歳以上の市民の家庭生活、平和と戦争、友情、内なる平和を取り上げています。

My Country is the Whole World: Women Peacemakers

平和の実現のために活躍した女性に関する展示で、A2サイズのパネルが28枚あります。

Office: Jacob's Well Manchester Road

Bradford BD1 5RW

Phone: 01274-754009

Fax: 01274-780240

Email: peacemuseum@bradford.gov.uk

次のニュースはオランダのジェラルド・ロスブロク (Gerard Lossbroek) さんから送られてきたニュースです。

オーストリア: フランツ・イエゲルシュタテルの家 Franz Jagerstatter House, St Radegund

ナチスに抵抗して処刑されたフランツ・イエゲルシュタテルの62周年記念行事が8月9日にあり、オーストリア、ドイツ、その他のヨーロッパ諸国、アメリカから約300人が参加しました。彼に関する情報入手は、Dr Erna Putz(Pfarrweg 5, A5121 Ostermiething, Austria)から可能です。

ベルギー：アントワープ平和センター

今年の春アントワープ平和センターという平和博物館ができました。当面、平和展を行ないません。7月1日から9月23日まで、「ドラ収容所：ナチの狂気」という展示が行われます。詳細は館長の Jef Boudewijns さんから入手可能です。

Peace Centre Antwerp, Lombardenvest 23, B-2000 Antwerpen, Belgium
www.vredescentrum.be.

オランダ戦争資料センター：アムステルダム

Netherlands: Netherlands Institute for war Documentation (Nederlands Instituut voor Oorlogsdocumentatie) (NIOD), Amsterdam

1940年から1945年に焦点を当て、戦争と子どもに関する展示がオランダ各地でなされています。小型の展示物ですが、大変興味深く教育的な内容です。アンネ・フランクの家と協力して作成されました。詳細は、エリック・ソーメルさんに聞いてください。

Erik Somers, NIOD, Herengracht 1016, NL-1016 Amsterdam, internet
www.niod.nl and www.oorlogskind.nl.

オランダ：未来のための記憶センター

Netherlands: Centre for remembrance for the future in Fort(ress) De Bilt, Utrecht

中高生を対象に、平和、暴力、自由、力、寛容をテーマにした移動展示物で、「平和の巢」と呼ばれています。展示物を見た人が、重要な問題を考え始めるように、名付けられました。将来へブライ語とアラブ語に翻訳の予定です。詳細を知りたい方は、Jan Durk Tuinier (Fort De Bilt, Biltsestraatweg 160, NL-3573 PS Utrecht, Netherlands) に問い合わせてください。

e-mail vrede@xs4all.nl, internet
www.vredeseducatie.nl.

オランダ：平和と非暴力の博物館（アムステルダム）

Museum for Peace and Nonviolence

平和と非暴力の博物館では、移動展示物を活用しています。ベルリンにある平和図書館・反戦博物館で作られた「ナチ・ドイツにおける良心的徴兵忌避者と脱走兵」の展示をしました。2004年の3月6日から4月6日までエセルステインのドイツ軍墓地若者センターで、また2005年4月9日から5月7日までアルペンリンの市役所で展示しました。展示物の詳細に関心のある方は、ベルリンのヨハン・シュミットさんに問い合わせてください。Jochen Schmidt Friedensbibliothek-Antikriegsmuseum, Greifswalderstrasse 4, D-10405 Berlin, Germany

またはアムステルダムの Hein van der Kroon さんに問い合わせてください。
Museum voor Vrede en Geweldloosheid, Museum Office, Minahassastraat 1, NL-1094 RS Amsterdam, Netherlands, e-mail procesnieuws@freeler.nl.

ロバート・レゴウトに関する展示

国際法大学教授のロバート・レゴウト

(Robert Regout)氏に関する展示物ができました。また彼に関する英文の論文が国際法の歴史に関する学術書に発表されました。Henri de Waele, 'Commemorating Robert Regout (1896-1942): A chapter from the history of public international law revisited,' Journal of the History of International Law 7:81-92, 2005.

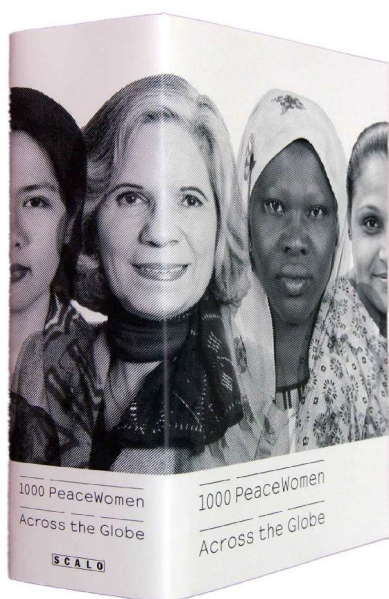
1000 PeaceWomen Across the Globe

世界各地で平和、人権、和解のために活動をしている 1000 人の女性を紹介しています。国際的に、また地域で重要な役割を果たし無名の女性がいますが、その活動を知ることができるだけでなく、さらに NGO、政府、平和のために活動をしている女性のネットワーク、難民の救援活動をしている団体、民主的な市民社会の構築のために活動している草の根の運動も知ることができます。

1000 Women for the Nobel Peace Prize 2005 という団体が編集、Scalo Books 出版、スイス 2005 年 ISBN 3-03939-039-2

www.scalo.com/1000peacewomen

(直接申し込むことができます)



国内ネットワークのニュース

室蘭市民俗資料館：北海道

民俗資料館開館 25 年 室蘭市平和都市宣言啓発事業 特別展「戦後 60 年 戦争と平和展」が 2005 年 8 月 6 日～9 月 4 日の会期で開催されました。太平洋戦争に関する日常生活用品（魚油ローソク、代用マッチなど）や軍服、市内戦跡説明パネルなどを展示しました。

Tel:0143-59-4922 Fax:0143-59-3715

<http://www.city.muroran.hokkaido.jp/main/org9440/>

青森市民美術展示館

「青森空襲展」が 2005 年 8 月 6 日～9 月 4 日の会期で開催されました。

Tel:017-773-1770 Fax:017-773-1547

<http://www.city.aomori.aomori.jp/koho/ksi/mp016.html>

八戸市博物館：青森

展示会「戦争と八戸市民－苦難とともに」が 2005 年 7 月 1 日～8 月 21 日の会期で開催されました。初めての総合的な戦争展示会です。これは、市民から寄せられた資料で、戦中の八戸市民の苦難な様子を紹介し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えてもらおうというものでした。展示構成は対外戦争、満州事変から日中戦争へ、銃後の役割、戦時下の教育、戦時下の生活、総力戦体制へ、敗戦への道、戦後を生き抜く、でした。防空壕を再現しています。図録を発行しています。

関連して「戦争体験を語る会」が、7 月 10・17・31 日、8 月 14 日に開かれました。

Tel:0178-44-8111 Fax:0178-24-4557

<http://www.hachinohe.ed.jp/haku/>

北上平和記念展示館：岩手

戦後 60 年記念「私たちと戦争－戦争を伝える絵手紙展」が、2005 年 7 月 20 日～8 月 20 日の会期で開催されました。戦時中の悲惨な経験や平和への願いを、花巻などの絵手紙サークルのメンバーらがつづった絵手紙約 750 通が、展示されました。

Tel:0197-73-5876

<http://www.city.kitakami.iwate.jp/>

盛岡市先人記念館：岩手

「戦後 60 年ミニ企画展」が 2005 年 7 月 17 日までの会期で開催されました。

Tel:019-659-3338 Fax:019-659-3387

<http://www2.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/senjin/senjin/>

仙台市戦災復興記念館：宮城

「仙台の戦災と復興の 60 年」が 2005 年 7 月 9 日～12 日の会期で開催されました。

Tel:022-263-6931 Fax:022-262-5465

<http://203.138.136.89/miyagiken/details/cities/sendaiishi/sendaiishi009.shtml>

山形県立博物館

特別展「戦争と子どもたち－学校・暮らし－」が 2005 年 7 月 9 日～9 月 18 日の会期で開催されました。戦争は子どもにも惨禍と労苦を与えており、不幸な戦争の記憶を風化させることなく後世代に語り伝えて、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えるために開かれたものです。戦時下の子どもたちについては、国民学校、軍事援護と出征、弾圧された生活綴方、軍事教練と勤労働員、くらしと遊び、学童疎開、について展示していました。学童疎開については豊島区立郷土資料館の資料を展示しています。映画「戦う少国民」もビデオにして上映しています。青い目の人形についても展示してい

ました。子どもたちの戦後については、ナトコ、山びこ学級などを展示していました。展示リスト付の図録を刊行しています。

Tel: 023-645-1111

<http://www.pref.yamagata.jp/ky/museum/kymuseum.html>

福島県歴史資料館

「記憶のなかの戦争」が 2005 年 7 月 1 日～8 月 21 日の会期で開催されました。過去の戦争を歴史的に正確に理解し、平和を考えるきっかけにするために開かれたものです。収蔵史料から、日清戦争・日露戦争・アジア太平洋戦争など、近代の戦争に関する史料を展示・紹介し、銃後のメディアやプロパガンダが戦争に果たした役割をみていくものでした。主な展示史料は、戦争錦絵・絵はがき・古写真・戦況地図・ビラなどや福島県・市町村の公文書で、約 60 点を展示しました。

Tel:024-534-9193 Fax:024-534-9195

<http://www.history-archives.fks.ed.jp/>

福島県立美術館

常設展のなかで「吉井忠と戦後日本の美術」が 2005 年 10 月 4 日～12 月 25 日の会期で展示されています。吉井忠の戦中・戦後の作品 11 点と、麻生三郎・中谷泰・糸園和三郎ら吉井忠の友人たちの作品 5 点が展示されています。

Tel: 024-531-5511 Fax: 024-531-0447

http://www.art-museum.fks.ed.jp/menu_j.html

ふれあい歴史館：福島

「昭和の福島－あこのころの福島は今」が 2005 年 7 月 10 日～12 月 7 日の会期で開催されています。空襲で投下された爆弾、サイレン、メガホン、雑誌、軍服、日の丸

寄せ書きなどの資料や写真で、不況、戦争、空襲、復興の様子を展示しています。

Tel:024-521-5318 Fax:024-521-8268

http://www.fks-wo.thr.mlit.go.jp/chusin/01_fukushimago/01_07_fureai.html

日立市郷土資料館：茨城

ギャラリー展「日立の戦災」が2005年7月20日～9月4日の会期で開催されました。戦災の写真22点が展示されました。

Tel:0294(23)3231

水戸市立博物館：茨城

終戦60周年企画「戦争の記憶展－平和への祈りを込めて－」が2005年7月26日～8月21日の会期で開催されました。2000年以來の戦争展示で、悲惨で過酷な戦争体験は平和のためにこそ記憶されねばならないという趣旨で、開館以來の市民からの寄贈・寄託戦争資料を展示し、募集した体験談も読めるようになっていました。展示は、兵隊たちの記憶、学生たちの記憶、子どもたちの記憶、女たちの記憶、日々の生活の記憶、俘虜たちの記憶、水戸空襲の記憶、終戦の記憶、などで構成されています。空襲体験画、気球爆弾なども展示し、灯火管制下の部屋を復元しています。タイムスリップクイズを作成していました。

関連して、戦争の記憶を聞く会が、8月2・9・15日に開かれました。

Tel:029-226-6521 Fax:029-226-6549

<http://www1.odn.ne.jp/~aap61310/>

群馬県立歴史博物館

第79回企画展「子どもたちと戦争」が2005年7月23日～8月31日の会期で開催されました。子どもの目線で、現代日本の戦争と平和について改めて考え、話し合っ

てほしいという趣旨で開かれました。展示

では、遠い戦場への出兵、県民の戦争協力と生活の変化、学校での授業や行事の変化、受け入れた学童疎開、太田・前橋の空襲、子どもたちの終戦の受けとめ、などを取り上げていました。図録を刊行しています。

関連して、前橋国際大学講師の岩根承成さんの「高崎連隊の兵士と戦場」と題した講演会が7月24日に、「前橋空襲」の体験談を聞く会が8月6日に、それぞれ開かれました。

Tel:027-346-5522 Fax:027-346-5534

<http://www.grekisi.gsn.ed.jp/>

高崎市歴史民俗資料館：群馬

企画展「終戦の日 その時高崎は」が2005年7月23日～9月19日の会期で開催されました。戦争を語る機会を提供し、戦争の記憶を掘り起こし、平和の尊さを後世に伝えるという趣旨で開かれました。軍人、高崎空襲の被害、戦時下のくらし関係などの館蔵品と、歩兵第15連隊の埋蔵遺物を展示していました。展示では、第1次世界大戦後、労働運動・農民運動が盛んでしたが、戦争とともに言論が統制され、満州開拓へ動員されたことも紹介しています。明日へのメッセージとして、終戦の日の体験記も展示しています。展示リスト付のパンフレットを刊行しています。

関連して中村茂さんの「発掘された十五連隊」と題した講演会が7月30日に、戦争体験を語る会が8月14日に、それぞれ開かれました。

Tel:027-352-1261

<http://www.city.takasaki.gunma.jp>

埼玉県平和資料館

企画展「戦争の記憶－205万人証言－」が2005年7月23日～9月25日の会期で開催されました。これは、平和の尊さを考

えるために、戦争体験者証言ビデオを撮った人の紹介と生活・軍事関連品を展示したものです。展示は戦地で何を経験したか、愛する人を待つ、逃げまどう人々、などで構成されていました。空襲被災品は豊島区立郷土資料館の所蔵品を展示していました。図録を刊行しています。

テーマ展 I 「山碧く里うるわし 唱歌の世界」が、2005年10月15日～12月11日の会期で開催されています。DVD ビデオによる図録を刊行しています。

戦争体験者との交流会が2005年8月15日に開かれ、村上八十八さんが「インパール作戦の体験」を話しました。

アニメを上映する映画会が講堂で開かれ、2005年6月11日には「なっちゃんの赤い手袋」と「対馬丸」が、7月16日には「はとよひろしまの空」と「火の雨がふる」が、9月17日には「つるにのって」と「手塚治虫物語 ぼくは孫悟空」が、10月8日には「潜水艦に恋したクジラの話」と「象のいない動物園」が、それぞれ上映されました。

特別映画会が講堂で開かれ、2005年8月13日には劇映画「ひめゆりの塔」が上映されました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112
<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

丸木美術館：埼玉・東松山市

入館者の減少と施設の維持改修で内部留保が本年度で底をつく事態になり、丸木美術館存続への緊急支援カンパのお願いがだされています。

針生一郎さん企画の戦後60年企画「今日の反戦展」が2005年7月20日～9月9日の会期で開催されました。

戦後60年企画「日韓五世代の作家展」が2005年9月13日～10月28日の会期で開催

されました。

(「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」83号・2005年7月10日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371
<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/top/kikaku.htm>

上福岡歴史民俗資料館：埼玉

戦後60年記念企画展「造兵廠と戦争遺跡」が2005年8月6日～9月4日の会期で開催されました。上福岡にあった陸軍造兵廠川越製造所からの出土品を含む関係資料や全体模型、鉢形航空廠と朝霞被服廠の資料、銃後の守りの関係資料、浅野カーリット工場の陶器製手榴弾や地雷、戦争遺跡の写真、武蔵部隊と被服品などを展示していました。展示資料目録を刊行しています。

関連して歴史学習講座として、8月6日に「上福岡の造兵廠と県内の陸軍施設」が、8月21日には「造兵廠と朝霞被服廠の学徒動員を語る」が、8月28日には「小学校に駐屯した本土防衛の陸軍武蔵部隊」が、それぞれ開かれました。

Tel:049-261-6065
<http://www.city.fujimino.saitama.jp/>

蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

夏の企画展「第16回平和祈念展 子どもたちの戦争—15年戦争の記憶—」が2005年8月2日～31日の会期で開催されました。戦争の悲劇を次世代に伝えるために、戦中・戦後の子どもたちの学校生活や日常生活を紹介し、平和の大切さを考えるという趣旨で開かれました。展示は、戦時下の学校、戦時下の教科書、子どもの世界、慰問袋、空襲・敗戦・戦後、などで構成されていました。

Tel:048-432-2477
<http://www.city.warabi.saitama.jp/reki>

[min/index.htm](#)

千葉県立安房博物館

南房総に残る 3 体の青い目の人形を展示する『青い目の人形』三姉妹展」が 2005 年 7 月 10 日～9 月 4 日の会期で開催されました。関連して、8 月 6 日に「青い目の人形」ミニコンサートと語りの会が開かれ、8 月 20 日にもと日の出学園高校教諭の宇野勝子さんの「千葉県の青い目の人形」と題した講演会が開かれました。

Tel:0470-22-8608

<http://www.chiba-muse.or.jp/AWA/>

鎌ヶ谷市郷土資料館：千葉

戦後 60 周年事業として、企画展「戦争の記録と記憶 in 鎌ヶ谷」が 2005 年 7 月 10 日～9 月 4 日の会期で開催されました。初めての戦争展示で、会場は三橋記念館 2 階展示室でした。展示のなかで、15 年の長い日中戦争で日本は中国の国土と民衆に多大な戦争被害を与えたことや日本が体験した最後の戦争となることを念願することが言われています。展示は、日清・日露戦争の時代、地域と軍隊、鎌ヶ谷村から戦地へ、「戦場」となった鎌ヶ谷村、「銃後」の鎌ヶ谷村、長い戦争が終わって、などで構成されています。図録を刊行しています。

Tel:047-445-1030

<http://www.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo.html>

君津市立久留里城址資料館

企画展「平和 60 年 戦時下の記憶」が 2005 年 10 月 18 日～12 月 4 日の会期で開催されています。これは、市民が大切に保管してきた資料などから、日本に戦争の時代があったこと、また地域がどのように戦争に組み込まれていたのかを振り返り、戦争

の悲惨さや平和の大切さを伝えるものです。展示構成は、戦争への道、兵士となった人々、教育と暮らし、航空廠と勤労動員です。

関連して、11 月 5 日に会議室で千葉県立上総高等学校教諭の渡辺茂男さんの「地域から見たアジア・太平洋戦争」と題した講演会が開かれました。戦争体験を聞く会が 11 月 23 日に会議室で開かれます。

Tel:0439-27-3478 Fax:0439-27-3452

http://www.city.kimitsu.chiba.jp/kyoiku/sho_gaku/bunka/kururijo/index.html

館山市立博物館：千葉

第 12 回収蔵資料展「軍都の時代」が 2005 年 7 月 23 日～8 月 31 日の会期で開催されました。砲台、監視所、海軍航空隊、砲術学校などの南房総の遺跡やモニュメント関係資料、軍都での人々の生活や教育関係資料、出征した者が残したものなどを展示していました。南房総の遺跡や、軍都と戦争のモニュメントを紹介した解説シートを作成しています。

Tel:0470-23-5212

<http://www.city.tateyama.chiba.jp/>

船橋市郷土資料館：千葉

第 71 回展示「あれから 60 年—戦争の時代をこえて—」が 2005 年 8 月 2 日～10 月 30 日の会期で開催されました。戦争が市民生活に及ぼした惨禍と、平和日本建設の苦難の歴史をふりかり、悲劇の歴史を繰り返さないことを願って開かれたものです。第 1 部は戦争・平和と市民のくらし関係資料の展示で、第 2 部は習志野原開拓についての写真展示でした。資料観覧のてびきを刊行しています。

Tel:047-465-9680 Fax:047-467-1399

<http://www.city.funabashi.chiba.jp/kyoudo/>

睦沢町立歴史民俗資料館：千葉

企画展「睦沢町民の戦争体験－戦後 60 年の記憶－戦争の歴史の事実を事実として伝えるために－」が 2005 年 7 月 16 日～9 月 25 日の会期で開催されました。戦争体験関係資料の収集を継続してきた成果を展示したものです。墜落した日本軍機の残骸・機関砲、墜落した搭乗員のパラシュートと結婚記念写真、従軍日記などを展示しています。展示資料リスト付リーフレットを刊行しています。

Tel:0475-44-0290 Fax:0475-44-0213

<http://www.town.mutsuzawa.chiba.jp/shisetu/museum/main.html>

東京大空襲・戦災資料センター

増築し、展示室を広げ、資料を充実をはかるために、2005 年 8 月から増築募金に取り組んでいます。

東京大空襲・戦災資料センター・友の会が『戦災資料センターから東京大空襲を歩く』を刊行しました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

東京都立第五福竜丸展示館

第五福竜丸の無線長久保山愛吉さんは、被災から半年後の 9 月 23 日に亡くなりました。闘病中、死去ののちも久保山さんと家族にお見舞や哀悼の手紙が多数寄せられました。手紙は小学生からお年寄りまで、励ましや平和への願いが強くにじみ、戦後 9 年目の世相と当時の人々の心情が伝わってきます。今回の展示は当協会所蔵の 3 千通の手紙より、47 都道府県からの 100 点を公開します。

また、特別展示として鈴木静枝さん（元乗組員鈴木慎三さんの妻、広島平和記念資料館蔵）の手記原稿を展示します。是非ご

来館ください。会期は 12 月 11 日まで。

「ビキニ事件の記憶を記録に」の手記募集は、ビキニ水爆・第五福竜丸被災 50 周年記念としてとよびかけられ、寄せられた約 50 編のなかの 34 編と特に掲載をお願いした 6 編からなる手記集がこのほど完成しました。これは庶民の中にあつたビキニ事件の影響の一端を知ることができ、興味深いものです。冊子は A5 版 64 ページ、500 円（送料 120 円）です。お申し込みは平和協会まで。

東京都江東区夢の島 3-2 夢の島公園内

TEL : 03-3521-8494 FAX : 03-3521-2900

E-Mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp

<http://d5f.org/top.htm>

中野区平和資料展示室：東京

2005 年 7 月 22 日に常設展がリニューアルオープンしました。戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝える趣旨で、広島・長崎の原爆、中野の戦災、中野の暮らし、学童疎開、中野の平和史跡、などについて展示しています。

リニューアルオープン企画「戦争中の動物園」が、2005 年 7 月 22 日～8 月 16 日の会期で開催されました。戦時猛獣処分で殺された上野動物園の動物の写真などが展示されました。

Tel:03-3228-8988 Fax:03-3228-5644

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/i/sh/sh-heiwa.html>

東京都現代美術館

開館 10 周年記念企画展「東京府美術館の時代 1926～1970」が 2005 年 9 月 23 日～12 月 4 日の会期で開催されています。このなかで、1940 年の紀元二千六百年奉祝美術展覧会も紹介されています。

2005 年 9 月 16 日～12 月 18 日の常設展示

で、「1920年代の東京」が取り上げられ、柳瀬正夢、矢部友衛、岡本唐貴、石垣栄太郎、国吉康雄などの作品が展示されています。

Tel:03-5245-4111

<http://www.mot-art-museum.jp/top.htm>

かつしか郷土と天文の博物館：東京

被爆・終戦60周年平和事業として、展示会「キ94!B29を撃墜せよー空襲とかつしかー」が2005年7月20日～9月4日の会期で開催されました。金町で造られた最新鋭高高度戦闘機キ94については、図面・日誌・記録・模型・写真など展示し、展示資料リスト付のリーフレットを作成しています。他に、初空襲で国民学校高等科の生徒を殺した爆弾など、空襲を物語る資料や、防空壕・高射砲陣地などの戦争遺跡の写真なども展示しています。

Tel: 03-3838-1101 Fax:03-5680-0849

<http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum/>

品川歴史館：東京

非核平和都市品川宣言20周年記念として、企画展「今に伝える学童疎開」が2005年7月23日～9月4日の会期で開催されました。展示では疎開した子どもたちの生活などを当時の絵・写真・学校の記録から紹介するとともに、疎開体験者の「思い出と子どもたちに伝えたいこと」についてのアンケート結果も展示しています。展示リスト付のリーフレットを刊行しています。

Tel:03-3777-4060 Fax:03-3778-2615

<http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/ji/gyo/06/historyhp/hsindex.html>

新宿歴史博物館：東京

新宿区平和都市宣言20周年記念「平和展

ー未来へつなぐ私たちの記憶と記録ー」が2005年7月30日～9月4日の会期で開催されました。第1部「戦争への道と新宿のくらし」では、子どもと戦争、国民精神総動員、出征と帰郷、戦時下の文化、銃後の暮らし、疎開、空襲と終戦、戦後、などについて展示しています。戦争体験の証言も展示しています。第2部は「未来に伝えよう、平和の願い」では、「平和派遣の会」や「記録・文化財の修復」などについて展示しています。新宿区内にある「ホロコースト教育資料センター」の協力で「ハンナのかばん」の展示もおこなっています。「平和のポスター展」も開催していました。

関連して、講演会は、ホロコースト教育資料センター代表の石岡史子さんの「ハンナのかばん」が7月30日に、国文学研究資料館アーカイブズ系教授の安藤正人さんの「戦争と文化遺産ー記憶を未来へ伝えるためにー」が8月13日に、それぞれ開かれました。2005年に広島へ行った平和派遣者の報告会が8月27日に開かれました。「父と暮らせば」の映画会が8月13日と27日に開かれました。

Tel: 03-3359-2131 Fax: 03-3359-5036

<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/46.html>

台東区立下町風俗資料館：東京

特別展「終戦60年 戦争と子どもたち」が2005年10月1日～2006年1月29日の会期で開催されています。これは、当時の子どもの視点から戦争の時代を見つめ直すものです。展示構成は、防空体制と空襲、戦時下の教育、戦時下の娯楽、学童疎開、戦時下の暮らし、終戦とその後の混乱、です。関連して、歴史講座として、11月12日に上野区民館4階で、漫才協会会長の内海桂子さんの「戦争を語る」が開催されま

した。

Tel:03-3823-7451

<http://www.taitocity.net/taito/shitamachi/>

豊島区立郷土資料館：東京

2005年度第1回企画展「東京空襲60年—空襲の記憶と記録—」が2005年7月27日～9月4日の会期で開催されました。展示では、江戸東京博物館・すみだ郷土文化資料館との共同研究の成果も盛り込んでいます。1の「戦争と豊島区」では隣組や防空思想の普及関係資料や戦地からの手紙を展示しています。2の「空襲の実相」館蔵被災品をほぼすべて展示しています。3の「米軍の記録」では、1945年4月13日の空襲についての米軍資料を分析し、攻撃目標と爆撃地・被災地のずれを示しています。4の「被災の記録」ではどこからどこへ逃げて、死んだかを図示した「4月13日の空襲の被災地図」を展示しています。5の「被災者の記憶」では、4月13日の空襲などの体験画を展示しています。図録を刊行しています。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

<http://www.museum.toshima.tokyo.jp/top.html>

練馬区郷土資料室：東京

収蔵品展「戦時下の暮らし」が2005年7月30日～9月19日の会期で開催されました。兵士の出征、銃後の生活、子どもたちの戦時生活など、戦時下の暮らしや戦争体験の紹介するものです。東京市開拓訓練所の栞、東京市興亜勤労訓練所の入所案内・願書なども展示していました。展示資料リスト付リーフレットを刊行しています。

Tel:03-3996-0563

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/shiryo>

[/bunkazai/shitsu/](http://bunkazai/shitsu/)

高麗博物館：東京・新宿区

特別企画展示「朝鮮人戦時労働動員(強制連行)を考える—加害の記憶と和解—」が2005年8月10日～10月16日の会期で開催されました。日本鋼管、相模湖、常磐炭田での強制労働関係資料が展示されました。

関連して、8月10日に講演会が、9月10日にシンポジウムが、それぞれ開かれました。

Tel:03-5272-3510 Fax:03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

昭和のくらし博物館：東京・大田区

「小泉家に残る戦争展2005」が2005年8月2日～31日の会期で開催されました。

Tel. & Fax:03-3750-1808

<http://www.digitalium.co.jp/showa/index.html>

ホロコースト教育資料センター：東京

ホロコースト教育資料センターは、2003年に展示室を閉じて、現在は全国の学校を対象に訪問授業やパネルの貸出を行なっています。訪問授業やセミナー、写真展のスケジュールなどはメールマガジンでお知らせしていますので、ご希望の方はぜひご登録ください。

2005年8月、カナダ政府の派遣により、『ハンナのかばん』著者のカレン・レビンさんが初来日しました。愛知万博カナダパビリオン、堺、神戸、横浜など各地で、ホロコースト教育資料センター代表石岡史子さんとともにお話を行ないました。2001年に、カナダトロントの地方紙で「ハンナのかばん」についての記事を見つけ、同じトロント在住のハンナの兄ジョージ・ブレイディ氏とカナダを訪問中の石岡史子さん

(ホロコースト教育資料センター代表)に取材を行ない、ラジオドキュメンタリー「ハンナのかばん」を製作。アメリカの国際ラジオフェスティバルで金賞を受賞。2002年、児童書「ハンナのかばん」を出版。カナダ、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、イギリス、イタリアなどで講演活動を行なっています。詳細は、ホームページを御覧下さい。

<http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo/topmember.htm>
holocaust@tokyo.email.ne.jp

八王子市郷土資料館：東京

特別展「戦時下の市民生活」が2005年8月2日～9月4日の会期で開催されました。展示の趣旨は戦争への反省と平和の大切さを後世に語り伝えることです。戦争への道のり、総動員体制、学校と子どもたちの生活、銃後の生活戦、空襲・敗戦そして復興へ、などについて展示していました。部屋の様子の復元や、もう一つの空襲として、湯の花トンネルで空襲を受けた中央本線419列車についても展示しています。ブックレット『八王子空襲』を刊行しています。

関連して記念講演会として、都立松が谷高校教諭の斎藤勉さんの「戦争と八王子」が8月6日に市民会館会議室で開かれました。講座「戦時中の食体験」が8月25・26日に開かれました。

Tel:0426-22-8939

<http://homepage3.nifty.com/hachioji-city-museum/index.html>

福生市郷土資料室：東京

特別展示、平和のための戦争資料展「戦争錦絵に見る日露戦争百年―日露戦争と福生―」が2005年7月2日～9月25日の会期で開催されました。戦争の歴史に目を向

け、貴い平和を見つめ直すという趣旨で、日露戦争の戦争錦絵を中心に、福生と日露戦争関係の軍事郵便、日誌、忠魂碑の資料などを展示していました。図録を刊行しています。

関連して、記念講演会として、専修大学教授の新井勝紘さんの「日露戦争の軍事郵便 戦地からの兵士の便り」が9月10日に中央図書館会議室で開かれました。

Tel:0425-53-3111

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/town/m005/32iopi0000004uv7.html>

神奈川県立地球市民かながわプラザ

アンコール遺跡の現状やその保存・修復に取り組んでいる国際協力団体の活動を紹介する写真パネルなどを展示する、企画展「アジアの世界遺産と国際協力―アンコール遺跡から―」が2005年7月30日～8月28日の会期で3階の企画展示室で開催されました。

世界遺産の現状を写真パネルやビデオで紹介する、企画展「地球のたからもの・世界遺産」が2005年10月1日～23日の会期で3階の企画展示室で開催されました。関連して、セーンジャーさんの「モンゴルの馬頭琴」の演奏が10月9日に、日本ユネスコ協会連盟世界遺産活動専門委員の城戸一夫さんの講演会「世界遺産の見方」が10月15日に、久郷ポンナレットさんの「カンボジアの宮廷舞踊」が10月16日に、それぞれおこなわれました。

(「地球市民レポート」22号・2005年7月発行、23号・2005年10月発行より)

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

横浜開港資料館：神奈川

「ドン・ブラウンと戦後の日本―知日派

ジャーナリストのコレクションから」が2005年8月3日～10月30日の会期で開催されました。アメリカ軍・日本軍のピラや石垣綾子の関係資料も展示していました。図録を刊行しています。

Tel:045(201)2100 Fax:045(201)2102
<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

平塚市博物館：神奈川

戦後60周年記念展示「市民が探る平塚大空襲」が寄贈品コーナーで2005年7月31日まで開催されました。これは、戦後50年の特別展をふまえ、その後の10年間の寄贈品や聞き取りの成果を展示したもので、「平塚の空襲と戦災を記録する会」が調査し収集した展示会です。展示は、戦時下の平塚、7月16日の空襲被害、空襲から終戦・戦後へ、の構成で、海軍関係の軍需工場で使われたイペリットなど化学兵器の容器も展示しています。

Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>

長岡戦災資料館

特別企画展「長岡戦災60周年」が2005年7月23日～8月21日の会期で開催されました。戦災資料館の持つ未公開資料、母子像といわさきちひろ複製画、東京大空襲の体験絵画、戦中・戦後を生き抜いた子どもたちのパネル、ポスター・作文などの平和作品が展示されました。

Tel:0258-36-3269
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/syomu/sensai/top.html>

新潟県立近代美術館

ドイツの版画家、彫刻家である「ケーテ・コルヴィッツ展」が2005年9月3日～10

月23日の会期で開催されました。

戦後60年特別企画「昭和の美術 1945年までー〈目的芸術〉の軌跡」が2005年11月3日～12月11日の会期で開催されています。これは、プロレタリア美術運動と戦争美術を〈目的芸術〉として捉えて展示するものです。図録を刊行しています。

Tel:0258-28-4111 Fax:0258-28-4115
<http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/index2.html>

津南町農と縄文の体験実験館：新潟

「津南郷から見える戦争」展が2005年8月1日～9月25日の会期で開催されました。戦争の悲惨さと二度と繰り返してはいけないので、戦争否定にこだわるとともに、親の世代は隣人の目が脅威であり、アジアへの偏見を持っていて、侵略戦争に協力したわけで、日本の民衆の被害のみを語るのでは世界に通用しないことも、展示の趣旨で述べています。展示は、戦争中の津南の生活、子供と教育、出征と戦地の様子、津南郷満蒙開拓団、鎮魂と葬送、魚沼地方の戦争遺跡、戦争の終結とその意味、などで構成されています。特に、銃後に残った女たちも皇国青少年をつくるなど侵略戦争に加担したこと、満蒙開拓団は侵略の一端を担っていたこと、朝鮮人・中国人も鎮魂の対象にすべきこと、などを述べています。図録を刊行しています。

関連して、悲惨な戦争体験を聞く談話会が、8月21日、9月11日・18日に開かれました。

Tel:0257-65-5511
<http://www.najomon.com/>

高岡市立博物館：富山

企画展「大正・昭和時代と子供たち」が2005年7月15日～9月4日の会期で開催さ

れました。戦時下の、児童の図画、学用品、教科書、玩具、雑誌、紙芝居、レコードなども展示されました。

Tel:0766-20-1572 Fax:0766-20-1570

http://museums.toyamaken.jp/j_kenpaku/j_kenpa/47.html

舟見城跡館：富山

「今、蘇るあの往時・あの人」展が2005年9月26日までの会期で開催されました。

平和文化史料館ゆきのした：福井

ありのままの歴史を知りつたえあう特集号として、「2005年5.30 憲法をまなぶつどいの記録」と、「史料で再現『福井空襲展』のレポート」を発行しました。

購読希望者は、下記に問い合わせてください。

(「館報」159号・2005年9月15日発行より)

ゆきのした文化協会(代表)加藤忠夫

〒910-0302 福井市米松2丁目11-13

Tel & fax: 0776-52-2169

info@yukinoshita.net

<http://www.yukinoshita.net/>

甲府市藤村記念館：山梨

企画展「戦後60年、あの時、あの頃」が2005年7月1日～11月27日の会期で開催しています。戦争を知らない世代へ悲惨な戦禍を伝える責務から、児童・生徒の目線で開いた展示会です。主な展示品は焼夷弾、被災品、雑誌、配給切符、予科練願書などで、教科書は墨塗教科書も展示し、灯火管制下の部屋を復元しています。

Tel:055-252-2762

<http://www.city.kofu.yamanashi.jp>

清里フォトアートミュージアム：山梨

開館10周年記念展「第二次世界大戦 日本の敗戦：キャパ、スミス、スウォープ、三木淳の写真」が2005年7月2日～10月23日の会期で開催されました。

開館10周年記念トーク&ライブが10月16日に開かれ、東京大空襲・戦災資料センター館長の早乙女勝元さんがトークを、津軽三味線奏者の木乃下真市さんがライブをしました。

Tel:0551-48-5599 Fax:0551-48-5445

<http://www.kmopa.com/>

諏訪市博物館：長野

「平和教育展 戦争が終わった-60年前のコト」が2005年8月31日までの会期で開催されました。

Tel:0266-52-7080 Fax:0266-52-6990

<http://www.city.suwa.nagano.jp/scm/>

豊丘村歴史民俗資料館：長野

「豊丘にみる戦争の記録-終戦60周年回顧」展が2005年8月30日までの会期で開催されました。

Tel:0265-35-9066

各務原市歴史民俗資料館：岐阜

「平和への願い 各務原大空襲から60年 伝えたい『戦争と人々の暮らし』」展が2005年8月5日～14日の会期で開催されました。図書館や歴史民俗資料館と同じ建物の中の展示ホールやロビーを使った大規模な展示でした。展示では、空襲で壊滅した軍需工場、住民の被害状況、空襲に備える住民、忠君愛国の教育、農村から軍需工場の町へ、中学生・女学生・実業学校生・青年学校生も動員、徴集と軍隊、戦時下の住民生活、住民の娯楽と情報の統制、戦争中の遊び、忠魂碑の変遷、進駐軍の基地・那

加、民主教育の始まり、戦後の開拓、などを取り上げていました。中心的な展示資料は、軍装品、防空用品、玩具、日用品などの物品と、紙芝居、軍事郵便、雑誌、体験記などの文献資料でした。特徴的な展示資料としては、国民学校生の絵・習字、代用品、婦人会・隣組関係資料、絵馬・ポスター・紙芝居、青い目の人形、風船爆弾の模型、墨塗り教科書、空襲被災品、爆弾、航空廠関係資料などでした。原爆・沖縄戦の写真や平和の願いの絵手紙も展示しています。〇×クイズを作っていましたが、ここでは空襲が市民に被害を与えたこと、中国人・朝鮮人の強制連行・強制労働も取り上げていました。『戦時記録』の抜粋を配布していましたが、そこでは、空襲、中国人の強制連行・殉難塔、朝鮮人強制労働の苦悩、掩体壕、特攻、挺身隊、勤労奉仕、看護婦、教育勅語、学童疎開、配給、代用食などについて書かれていました。

Tel:0583-89-5752 Fax:0583-71-1145

<http://www.city.kakamigahara.gifu.jp/rekisi/rekisi.html>

静岡平和資料センター

戦後60年記念事業「静岡・清水空襲体験画・写真展」が、静岡平和資料館をつくる会と静岡市・静岡市教育委員会との共催により、静岡市役所静岡庁舎市民ギャラリーで、2005年8月13日～21日の会期で開催されました。昨年募集した100枚の体験画の原画、写真、国民学校の資料などを展示しました。

戦跡見学「空襲の跡を歩いてみよう」が2005年8月20日に、戦跡見学「空襲の跡を歩いてみよう パート2」が2005年10月23日に、それぞれ開催されました。

「戦争体験を聞くつどい」が2005年8月28日に、アイセル21で開催され、金原亘

さんが「特別攻撃隊に身を置いて」と、石川重尾さんが「さてどこへ、ケロイドをぶら下げて」と、それぞれ題して話しました。

企画展「2000人の命を奪った静岡空襲」が、2005年10月14日～2006年3月5日の会期で開催されています。アメリカ軍撮影の鮮明な空襲後の航空写真などを展示しています。

『静岡・清水空襲の記録—2350余人へのレクイエム』と『市民が描いた体験画集 静岡・清水 大空襲と艦砲射撃』が刊行されました。

(「明日へ—静岡平和資料館をつくる会 ニュースレター」63号・2005年8月1日発行、64号・2005年11月1日発行より)

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

沼津市明治史料館：静岡

終戦60周年記念「1931-1945 沼津と戦争」展が2005年7月1日～9月29日の会期で開催されました。かつての戦争と現在の平和を考える機会として開かれたものです。常設展の一部を使った展示会で、館蔵品の展示ですが、新しい資料も展示しています。佐々木古桜の絵日記を効果的に使って、展示の各コーナーの説明をしています。出征兵士の戦没、銃後の厳しい生活、沼津大空襲などの資料とともに、海軍技術研究所音響研究部、沼津海軍工廠、拓南錬成所などの資料の展示が特徴的です。図録を刊行しています。同時に「戦没者遺骨収集にみる いのちの写真パネル展」も開催されました。

関連して歴史講演会として、静岡大学教授の荒川章二さんの「沼津と戦争—地域から見る戦争—」が9月3日に2階講座室で開催されました。「平和を考える中学生の戦争

史跡めぐり」が7月27日、8月4・5・12日に、小学生歴史教室「戦時中の暮らしを体験しよう」が7月28日に、それぞれ開かれました。

Tel:055-923-3335 Fax:055-925-3018
<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/>

安城市歴史博物館：愛知

『研究紀要』第12号が2005年3月31日付で刊行され、学芸員の斎藤弘之さんの論文『戦争のなかに生きる』ということー戦争体験を民俗学的手法で解釈することの試み」などが掲載されています。

体験講座「戦争遺跡めぐり」が10月8日に開かれ、旧海軍依佐美送信所・海軍明治航空基地跡などを、安城市史考古部会調査執筆委員の神谷友和さんの案内でまわりました。

Tel:0566-77-6655 Fax:0566-77-6600
<http://www.katch.ne.jp/~anjomuse/>

岡崎市郷土館：愛知

企画展「終戦60年ー戦争を語る品々、伝えたい記憶ー」が2005年7月16日～9月4日の会期で開催されました。郷土館の建物が徴兵検査をした建物だったので、これまで何回か戦争関係の企画展を開催してきましたが、今年の展示は、それまでのものを集大成した内容でした。戦争記録や記憶を探る一助にするために開かれたもので、一般募集した資料が中心的な展示資料でした。おもな展示資料には、焼夷弾、アメリカ軍ビラ、罹災証明書、空襲写真・地図、戦災復興計画図、軍装品・遺品、千人針、日の丸寄書、徴兵検査栞、徴集くじ、軍隊手帳、遺骨迎、海軍志願、引揚証明書、軍事教育、日参団、満州地図、事変絵葉書、慰問絵葉書、勤労働員の記録、応徴、勤労報国隊、

防空頭巾、防毒面、防空必携、国債ポスター、代用品、衣料切符、パン焼き器、墨塗り教科書などです。

Tel:0564-23-1039
<http://www.city.okazaki.aichi.jp/museum/ka351.htm>

江南市歴史民俗資料館：愛知

「江南の空襲60年」展が2005年8月21日までの会期で開催されました。常設展の一角での小規模な展示ですが、1945年7月13日の空襲が住民に犠牲や被害を与えたことを展示していました。展示した文献資料や解説・図表を収録したパンフレットを作成しています。

Tel:0587-55-2321
<http://www.city.konan.aichi.jp>

桜ヶ丘ミュージアム：愛知

終戦60周年企画「豊川海軍工廠展 巨大兵器工場ー終戦60年後の記録ー」が2005年7月23日～9月4日の会期で開催されました。毎年開催している企画ですが、今年は常設展を全部撤去して企画展にあてており、大規模なものでした。開催趣旨は、わが国は戦後平和でしたが、戦争のおこした不幸や困難を忘れさせており、あらためて戦争を記録し、未来に伝えることに置かれていました。館蔵資料の蓄積や手記集が相次いで刊行されているのを、ふまえた展示会でした。館蔵品中心ですが、立命館大学国際平和ミュージアムなどから豊川海軍工廠関係資料を借用しており、海軍工廠全体を明らかにする展示も、各地の博物館から借用資料をつかって展示していました。図録と豊川海軍工廠関係館蔵資料目録を刊行しています。

関連して、体験談を聞く会が8月21日に会議室で、学芸員を講師とする講座が会議

四日市市立博物館：三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2005年6月18日～9月30日の会期で開催されました。焼夷弾、代用品、軍装品などを展示していました。

Tel:0593-55-2700 Fax:0593-55-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

市立長浜城博物館：滋賀

「昭和・くらしのうつりかわり展—あの日・あの時・あの時代—」が2005年6月11日～7月22日の会期で開催されました。

Tel:0749-63-4611 Fax:0749-63-4613

<http://www.city.nagahama.shiga.jp/section/rekihaku/>

銅鐸博物館：滋賀・野洲市

人権と平和に関するテーマ展「アフガニスタンに届け平和の小包」がエントランスホールで、2005年7月9日～9月4日の会期で開催されました。ガールスカウト日本連盟のピースパックプロジェクトを紹介する展示会です。リーフレットがつけられています。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

栗東歴史民俗博物館：滋賀

テーマ展「平和のいしずえ 2005」が2005年7月24日～8月21日の会期で開催されました。「平和のいしずえ」展は、1991年から毎年継続して開かれている展示会で、戦争の歴史と戦時下の生活を振り返り、地域の視点から平和を考えるものです。そして日本の近代は、アジアの覇権をめぐる対外戦争・侵略戦争を繰り返してきましたが、戦争は国民に内面化してきたと捉えています。

今年は、銃後団体にスポットをあててい

ます。政府は国民教化のために、地域の自治組織を再編し、戦争肯定・支援の銃後団体に変質させていきます。日露戦後の在郷軍人会・青年団・処女会・婦人会や、アジア・太平洋戦争期の町内会・隣組がそうであり、臨戦意識を作り出し、国民一丸となって戦争遂行へむかっていったとしています。

1の「近代徴兵制と国民」では徴兵制や戦地へおもむく兵士について展示していますが、徴兵逃れ手引きとなっている徴兵の心得や召集逃れの祈願を記した書簡も展示しています。2の「戦時下の国民生活」では、農家への増産強制、公債強制、配給制、代用品などについて展示しています。3の「銃後団体と地域社会」では、「地方改良運動と若者組織」について精神修養のための若者の団体であった玉梅社や青年団について展示しています。「奉仕活動と婦人団体」では処女会、国防婦人会、愛国婦人会、大日本婦人会などについて展示しています。「国家総動員体制と近隣組織」では常会手帳・ポスター・回覧板などの隣組関係資料、帝国在郷軍人会関係資料や五人組の研究資料などを展示しています。最後に「無言の帰還」では戦死通知、最後の手紙、血染めの千人針などを展示しています。

今年も、徴兵制、若者組織、隣保組織、帝国在郷軍人会の関係資料など、里内文庫資料を豊富に展示しています。図録と出品リスト掲載のリーフレットを刊行しています。

関連して、「戦争遺跡見学会—豊川海軍工廠 栗東からの女子挺身隊の足跡をたどる—」が8月4日に開かれました。

『紀要』第11号が2005年3月付で刊行され、学芸員の大西稔子さんの論文「芦原国民学校の学童集団疎開生活について—滋賀県下における学童集団疎開の一事例—」

などが掲載されています。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan/>

浅井町歴史民俗資料館：滋賀

企画展「戦後60年 終戦記念展—語り継ぐ戦争の記憶—」が2005年7月23日～9月4日の会期で開催されました。学習館1階では今年調査して収集した資料を展示していますが、同時に体験談も収集し、語ったままを記録して展示しています。「女性と戦争」では、従軍看護婦の遺書・遺髪・召集状、出征して残された女性の資料を、「銃後の備えと空襲」では、今荘区防空演習記録や防空関係資料を、「家族の歩み」では、町内兵士の遺書、中国へいった軍人の関係資料をそれぞれ展示し、学徒勤労動員や戦後のくらしの関係資料も展示しています。2階では、学童疎開、戦時下の暮らし、出征兵士の関係資料や原爆被災品など、昨年からの資料を展示していました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

<http://nsl.town.azai.shiga.jp>

立命館大学国際平和ミュージアム：京都

特別展「漫画原画展—中国からの引揚げ少年の記憶—」が1階の中野記念ホールで2005年5月27日～6月23日の会期で開催されました。これは舞鶴引揚記念館所蔵の、「中国引揚げ漫画家の会」の漫画家たちが描いた原画を借りて展示したものです。5月29日に記念講演会が創思館カンファレンスルームで開かれ、「中国引揚げ漫画家の会」の、ちばてつやさん、森田拳次さん、石子順さんが講演しました。

特別展「世界報道写真展2005」が1階の中野記念ホールで2005年10月1日～30日の会期で開催され、続けて大分県別府市に

ある立命館アジア太平洋大学の本部棟2階コンベンションホールで11月3日～11月18日の会期で開かれます。

「映画 日本国憲法」の上映会が2005年7月20日に、立命館大学以学館1号ホールで開かれ、プロデューサーと館長との対談もおこなわれました。

京都市美術館

特別展「修羅と菩薩のあいだで—もうひとりの人間像—」が2005年10月25日～2006年1月15日の会期で開催されています。石垣栄太郎の作品「リンチ」や3.1独立運動、朝鮮戦争、山村工作隊、ベトナム戦争での焼身自殺などを描いた作品や橋本関雪の戦争画などが展示されています。

Tel:075-771-4107 Fax:075-761-0444

<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/>

宇治市歴史資料館：京都

「戦後60年 戦時下の暮らし展」が2005年7月23日～9月11日の会期で開催されました。主催は、宇治市平和都市推進協議会で、宇治市歴史資料館を会場に開催されました。趣旨として、戦争に関する品々や当時の暮らしをうかがえる品物の展示を通して「戦争」という愚かな過ちを繰り返してはならないことを感じ取ってほしいとされています。戦後50年と戦後55年に開催した「戦争遺品展」展示資料と新たに提供された資料を展示しています。2室をつかった展示で、手前の部屋では戦争遺品と戦時下の暮らし関係資料を展示しています。奥の部屋では戦中・戦後の刊行物や『ふるさと白川の風景』のイラスト原画を展示していました。展示構成と概要を載せたリーフレットを刊行しています。

Tel:0774-39-9260

<http://www.city.uji.kyoto.jp>

向日市文化資料館：京都

夏のラウンジ展示「戦後60年『くらしのなかの戦争』展」が2005年8月13日～9月11日の会期で開催されました。身近な地域の資料から戦争と平和について考える夏のラウンジ展示は毎年おこなわれていますが、今年は集大成的な展示で、主なものをまとめて展示していました。軍装品、防空関係資料、代用品、教科書、学校関係のアルバムなどの資料、幼児向け雑誌・画報、双六、慰問絵葉書、マッチのラベル、軍事郵便や、勤労奉仕、配給、隣組、防空演習、供出など関する村の公文書など、を展示しています。

Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121

<http://www.city.muko.kyoto.jp/shisetsu/shiryokan.html>

大山崎町歴史資料館：京都

小企画展「平和のいしずえ 第7回」が2005年8月9日～21日の会期で開催されました。平和の尊さを語り合う契機するために、町民からよせられた戦争時の資料を展示するものです。今年は戦前戦中のこどもの問題集、遊び道具や、朝鮮旅行のパンフレットなどを展示していました。

Tel:075-952-6288

<http://www.kiis.or.jp/rekishiki/kyoto/yamazaki2.html>

園部文化博物館：京都

特別展「新聞・号外で振り返る戦後60年展」が2005年7月23日～8月21日の会期で開催されました。

Tel: 0771-63-2982 Fax: 072-270-8159

<http://www.smc.town.sonobe.kyoto.jp>

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

戦後60周年記念「ピースおおさか収蔵品展—60年前の戦争モノ語り—」が1階特別展示室で2005年7月12日～9月11日の会期で開催されました。空襲など戦争の実相、戦時中のひとびとの生活、戦争とのかかわりなどを、モノを通して伝え、犠牲者を追悼し、平和を祈念する展示会でした。

特別展「地球りに生きる 2005—DAS JAPAN フォトジャーナリズム写真展」が1階特別展示室で2005年9月20日～11月5日の会期で開催されました。

「大阪空襲死没者を追悼し、平和を祈念する場」が2005年8月14日に1階中庭に完成しました。氏名が判明した大阪空襲死没者の名簿を収納し、内壁の銅板にその氏名を刻銘しています。

「8.15終戦の日 平和祈念事業」として、俳優の新屋英子さんによる講演「戦争はあかん—皇国少女の8月15日」が1階講堂で2004年12月4日に開かれました。

「21世紀の平和を考えるセミナー」は、第16回として京都女子大学教授家の初瀬竜平による「新しい戦争、古い戦争」が2005年6月25日に、第17回としてドイツ文学翻訳家の池田香代子さんによる「世界がもし100人の村だったら」が9月17日に、それぞれ1階講堂で開催されました。

戦跡フィールドワーク「大正区空襲跡を歩く」が2005年6月5日に、「大阪城公園に残る戦争の傷あとをたずねる」が8月13日に、それぞれ関西大学名誉教授の小山仁示さんらの案内で開かれました。

教員のための「平和学習」講座として、小山仁示さんの講演「大阪大空襲を伝える」と京都教育大学教授の村上登司文さんの平和学習ワークショップが2005年8月3日に、大阪戦災傷害・遺族の会の伊賀孝子さんの講演「大阪大空襲を伝える」と大阪女学院

大学助教授の奥本京子さんの平和学習ワークショップが8月4日に、それぞれ開催されました。

守山俊吾さんの「ピースコンサートⅢ」が1階講堂で2005年10月15日に開催されました。

21世紀の子どもたちにおくる平和のつどい「杉山兄弟シャボン玉ショー」が1階講堂で2005年7月24日に開催されました。

映画上映会が1階講堂で2005年8月14日開かれ、「父と暮せば」が上映されました。（「ピースおおさか」34号・2005年9月30日発行より）

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://mic.e-osaka.ne.jp/peace/>

吹田市平和祈念資料室：大阪

企画展「絵手紙が伝える戦争」が2005年11月1日～13日の会期で開催されました。これは日本絵手紙協会が「絵手紙で伝え残そう戦争の記憶」というテーマで公募した絵手紙1500通のうち、200余通を展示するものです。戦争体験者が平和の尊さを伝えたいという強烈な思いで描かれた絵手紙を、若い世代の人に見てほしいという趣旨で開催されたものです。

「平和映画会」を毎月開催していますが、2005年5月は1965年ソ連映画「鬼戦車T-34」を14・15・28・29日に、6月は1981年日本映画「子どものころ戦争があった」を11・12・25・26日に、7月は1932年アメリカ映画「武器よさらば」を16・17・23・24日に、8月は1983年日本のアニメ映画「アンネの日記」を20・21・27・28日に、9月は1930年アメリカ映画「モロッコ」を10・11・25日に、10月は1930年アメリカ映画「西部戦線異状なし」を8・9・22・23日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593

<http://www.city.suita.osaka.jp/kobo/jinken/page/000338.shtml>

大阪歴史博物館

わくわく子ども教室「親子で見る、聞く戦争体験」が4階講堂で2005年8月14日に開催されました。空襲や戦争の悲惨さ、平和の大切さを若い世代に伝えるために開催されました。空襲関係のアニメーション「消えさらぬ傷あと 火の海・大阪」「おあちゃんごめんね」の上映と、大阪大空襲の体験を語る会代表の久保三也子さんのお話がありました。

Tel:06-6946-5728 Fax:06-6946-2662

<http://www.mus-his.city.osaka.jp/>

箕面市郷土資料館：大阪

戦後60年平和推進事業「戦時生活資料展」が2005年7月27日～8月28日の会期で開催されました。平和の尊さと人権を考える趣旨で、耐えることを強いられた戦争中の生活を当時の資料から学ぶために開催されたものです。例年と同じく、学芸員実習生が展示したもので、兵士の訓練など創意的な展示も見られました。代用品、米つき、債券、配給切符、レコード、雑誌、教科書など「くらし」関係資料、灯火管制の資料や火たたきなど「空襲に備える」関係資料、米軍燃料タンクなど「空襲」関係資料、軍装品、軍票、軍事郵便などを展示していました。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694

<http://www2.city.minoh.osaka.jp/KYUUDO/home.html>

くすりの道修町資料館：大阪市

企画展「製薬企業の戦後60年」の第1部「製薬企業の戦後復興」が2005年4月～9月末まで開催されました。抗生物質の登場、

結核薬・その他の画期的新薬、ビタミン剤の花形時代、国民皆保険制度の実施、海外製造技術の導入などについて展示されました。

Tel:06-6231-6958

<http://www.kusuri-doshomachi.gr.jp/>

姫路市平和資料館：兵庫

被爆資料、原爆写真パネル、小・中・高生の作品などを展示する「非核平和展」が2階展示室で2005年7月17日～8月31日の会期により開催されました。関連して、8月7日に平和を共に歌う合唱コンサートが開かれ、8月21日には首藤好美さんが、「被爆体験談」を話しました。

企画展「戦時下の青春群像－父母たちへのメッセージを中心に－」が2階展示室で2005年10月8日～12月23日の会期により開催されています。関連して、黒田権太さんによる講演会「戦時下の思い出を語る」が11月3日に開かれました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryo/>

伊丹市立博物館：兵庫

企画展「戦争と伊丹の人々」が2005年7月9日～8月30日の会期で開催されました。例年の常設展の一部の展示と異なり本格的な特別展です。戦争を知らない世代が戦争について理解を深め、平和の大切さを考えてもらうようにとの趣旨で開かれたものです。館蔵品が中心ですが、個人、兵庫県歴史博物館、大阪国際平和センターからの借用資料も多くなっています。児童の図画・作文・教科書、勤労働員関係資料、軍事郵便、配給切符、債券、代用品、防空壕からの出土品、灯火管制関係資料などを展示していました。戦時下の部屋を再現していま

した。体験証言を収集し、『戦時体験証言集 市民が語る戦争』を7月9日に刊行していますが、これを展示に生かしています。図録を刊行しています。

Tel:072-783-0582、Fax:072-784-8109

http://www.city.itami.hyogo.jp/sub/03_asobu/5_hakubutsukan.html

小野市立好古館：兵庫

特別展「青野原俘虜収容所の世界」が2005年10月1日～11月27日の会期により開かれています。

関連して、神戸大学教授の岸本肇さん、夢野中学校長の藤原竜雄さん、京都府総合資料館の福島幸宏さんによる講演会が11月5日に小野高等学校百周年記念館で開かれました。

『ふるさとをしのぶ音楽会』－青野原俘虜収容所演奏会の復元－が10月10日に小野市うるおい交流館「エクラ」で開かれました。

Tel:0794-63-3390 Fax:0794-63-3462

<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/>

和歌山市立博物館

特別展「石の記憶－ヒロシマ・ナガサキ－」が2005年7月2日～8月7日の会期で開催されました。これは東京大学総合研究博物館が制作した巡回展を受けたものです。併設展「和歌山大空襲60年展」が7月2日～8月28日の会期で開催されました。ロビーを使った展示ですが、規模は大きいものです。前回の戦後50年の時の特別展と比べますと、テーマを空襲と暮らしに限定していますが、新しい資料も追加されています。ワークシートを刊行しています。関連して講演会が開かれ、7月9日に学芸員の武内善信さんが「和歌山大空襲とその時代」と題して、8月6日に東京大学総合研究博物

館教授の田賀井篤平さんが「石の記憶－東大に保存されていた被爆標本」と題して、それぞれ講演しました。

Tel:073-423-0003

<http://www.wakayama-city-museum.com/>

鳥取県立博物館

「戦争中のくらし－アジア・太平洋戦争と鳥取の人々－」が1階の歴史民俗常設展示室「歴史の窓」コーナーで2005年8月6日～9月3日の会期により開かれました。

15年戦争において、日本はアジアや太平洋の諸地域に大きな被害を与えるとともに、日本兵士にも多くの犠牲者を出しました。また、国内においても、国民は、実際の戦争の様子や状況についてはほとんど知らされないまま、戦争協力を強いられ、空襲などによって、多くの人命が失われました。平和な世界をつくっていくために、この戦争の事実を知ろうとしなければならぬという趣旨で開かれました。『婦人愛国の歌』と題した絵、戦地にいる兄が弟に宛てた手紙、千人針、衣料切符、空襲予告ビラなどが展示されました。

Tel:0857-26-8042 Fax:0857-26-8041

<http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>

広島平和記念資料館

開館50周年記念企画展「廃墟の中に立ち上がる－平和記念資料館とヒロシマの歩み－」が地下1階の展示室3.4で、2005年7月11日～12月18日の会期で開催されています。1の「平和資料館の50年」では、広島平和記念資料館の前史からの歴史を写真を中心に、設計図、ポスター、本、パンフレット、入場券、音声ガイド、対話ノートなどの資料も展示しています。2の「ヒロシマの60年」では、慰霊追悼関係では碑、遺

骨と遺品、行事などについて、保存復元関係ではドーム・街並み・映像などについて、記憶継承関係では、文学資料・体験記・絵などを展示しています。

(広島平和文化センター「平和文化」158号・2005年9月1日発行より)

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peace-site/>

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館との合同企画展「しまつてはいけない記憶－体験記にみる被爆の実相－」が2005年7月8日～9月30日の会期により開かれました。図録を刊行しています。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

広島市郷土資料館

被爆・戦後60周年記念企画展「戦中・戦後の市民生活展－よみがえる戦争の記憶・はじめて知る苦難の時代－」が2005年4月23日～9月11日の会期で開催されました。現在の平和が悲慘な歴史の反省の上にあるという認識を共有するために、困難を余儀なくされた戦中・戦後の市民生活を当時の写真や生活資料で振り返る展示会でした。暮らし・文化・子どもの遊びの戦時色がよく出ており、被服廠の資料が特徴でした。青い目の人形も展示していました。

関連して、学芸員の石本正紀さんの講演会『『軍都』広島形成と宇品陸軍糧秣支廠』が7月17日に開かれました。史跡めぐりは8月21日に比治山を、8月28日に宇品を、それぞれまわりました。映画上映会は、6月4日と6日にはアニメ「なっちゃんのおいてぶくろ」「ヒロシマに一番電車が走っ

た」「対馬丸一さよなら沖繩」を、6月25日と26日にはアニメ「はとよひろしまの空を」「さようならカバくん」「かんからさんしん」を、8月13日と14日には「映像でつづる昭和史9・10－昭和20年戦中・戦後」を、それぞれ上映しました。教室は7月16日には「戦前・戦中の遊び－ショウノウ船を作ろう」を、8月7日には「ゴシゴシ昔の洗濯体験」を、それぞれ開きました。

Tel:082-253-677 Fax:082-253-6772

<http://wed.hiroins-net.ne.jp/kyodo/top/topfrm.html>

広島市公文書館

「描かれたHIROSHIMA展」が2005年6月6日～9月30日の会期で開催されました。被爆前後の広島を描いた絵・地図・写真・公文書を展示し、被爆体験を継承することで、被爆の実相を伝え、平和の尊さを感じてもらおうという展示会でした。軍都としての街の発展や防空について展示するとともに、吉田初三郎の原爆爆発瞬間の絵、広島その日の夕暮れの絵、被爆前後の産業奨励館の絵、さらに被爆前後のアメリカ軍撮影の航空写真なども展示していました。図録を刊行しています。

Tel:082-243-2583 Fax:082-542-8831

<http://www.city.hiroshima.jp/kikaku/ko-ubun/index.htm>

福山市人権平和資料館：広島

戦後60年企画展「子どもの日記からみた学童疎開」が2005年6月21日～7月31日の会期で開催されました。大阪市からの集団疎开学童の日記や写真などを展示していました。企画展の制作はNPO法人がおこなっています。

戦後60年企画展「福山空襲」が2005年8月4日～9月30日の会期で開催されまし

た。これは、アメリカ軍資料や市民の証言をもとに空襲を見直すものです。

戦後60年企画展「戦時体制のなかの学徒動員」が2005年10月12日～12月18日の会期で開催されています。これは、子どもや女性を動員せざるをえなかった太平洋戦争を、子どもたちの姿を通して見直すものです。

『開館10周年記念誌 人権と平和を求めて－遺跡は語る、命の尊さ－』が2005年3月に刊行されました。これには事業記録と「知られざる 福山海軍航空隊」や「福山の戦争遺跡」などが掲載されています。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwashiryokan/>

ふくやま文学館：広島

「被爆60周年 8月6日の波紋 井伏鱒二と小山祐士」が2005年7月1日～8月31日の会期で開催されました。

Tel:084-932-7010 Fax:084-932-7020

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/bungakukan/>

高松市市民文化センター平和記念室：香川

「高松空襲写真展」が高松市市民文化センター1階ロビーで2005年6月28日～7月10日の会期で開催されました。

「高松市戦争遺品展」が高松市役所1階市民ホールで2005年8月1日～5日の会期で開催されました。

「憲法記念平和映画祭」が高松市市民文化センター3階講堂で2005年5月28日に開かれ、アニメーション映画「字のないはがき」と児童劇映画「白い町ヒロシマ」を上映し、高松市平和を願う市民団体協議会顧問の花崎政美さんが「戦争体験談」を話しました。

「平和を語るつどい」講演会が高松市市民文化センター3階講堂で2005年7月1日に開かれ、広島修道大学名誉教授の岡本三夫さんが「大きな平和、小さな平和」と題して講演しました。

「被爆体験者の講話」が高松市市民文化センター3階講堂で8月23日と24日に開かれ、岡田恵美子さん話しました。

高松市市民文化センター平和記念室開設10周年を記念して『高松空襲写真集』が2005年7月4日に刊行されました。

(「平和記念室だより」19号・2005年7月発行、20号・2005年10月発行より)

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724
<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/1740.html>

徳島県立文書館

特別企画展「戦後60年のメッセージ伝えたいあの時―」が2005年8月2日～10月30日の会期で開催されました。空襲写真、公文書に見る配給、ナトコ映画フィルム、高校教育・衛生・公害関係文書、1945年生まれの女性の歩みから戦後史を見つめる、などが展示されました。図録を刊行しています。

Tel:088-668-3700 Fax:088-668-7199
<http://www.archiv.comet.go.jp/>

福岡市博物館

「戦争とわたしたちの暮らし 14」が2005年5月24日～7月18日の会期により開かれました。館蔵の戦時資料を展示するシリーズの14回目です。戦時期の「食」に関する資料を中心に展示されました。

Tel:092-845-5011
<http://museum.city.fukuoka.jp/>

筑紫野市歴史博物館：福岡

「戦後60年・ふるさとの戦時資料展」が2005年8月6日～31日の会期により開かれました。

Tel:092-922-1911 Fax:092-922-1912
<http://www.city.chikushino.fukuoka.jp/furusato/index.htm>

長崎原爆資料館

第五福竜丸平和協会から被災資料や写真パネルを借りて展示する、企画展「第五福竜丸展」が、地下2階の企画展示室で2005年10月4日～12月25日の会期で開催されています。10月4日に第五福竜丸平和協会事務局長の安田和也さんの記念講演会が開かれました。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170
<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館との合同企画展「追憶 時代を超えた願い―体験記と写真が語るあの夏の日―」が2005年7月8日～9月30日の会期により開かれました。長崎では、交流ランウジを会場に、写真37点、体験記など20点とともに、浦上第一病院で救護活動をした秋月医師の医療器具や、永井博士の救護活動時のメモなどが展示されました。

Tel:095-814-0055 Fax:095-814-0056
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

大分市歴史資料館

テーマ展示「歩兵47連隊 日中戦争写真展」が2005年7月9日～10月16日の会期で開催されました。連隊の一員として秦臯月さんが命をかけて撮影した写真を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて考える

機会とするものでした。

<http://www2.city.oita.oita.jp/guide/shisetsu/rekisi.html>

Tel:097-549-0880 Fax:097-549-5766

鹿児島県立図書館

写真と本を展示する「終戦から60年展」が2005年8月3日～9月11日の会期により、1階閲覧室内で開かれました。

Tel:099-224-9511 Fax:099-224-5824

<http://www.kentosho.pref.kagoshima.jp/>

沖縄県平和祈念資料館

「体験者が描く沖縄戦の絵」展が企画展示室で、2005年6月11日～7月3日の会期により開かれました。

第6回特別企画展「沖縄戦と疎開ー引き裂かれた戦時下の家族」が企画展示室で2004年10月10日～12月18日の会期で開催されています。その後、分館である八重山平和祈念資料館で2006年1月17日～2月26日の会期で開催されます。沖縄県の疎開の全体像を明らかにするとともに、「ひもじさ」「寒さ」「寂しさ」で表現される疎開体験を伝えるものです。図録を刊行しています。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-musem.pref.okinawa.jp>

沖縄県公文書館

「公文書等の記録資料に見る沖縄戦」展が2005年8月2日～10月2日の会期により開かれました。

Tel:098-888-3875 Fax:098-888-3879

<http://www.archives.pref.okinawa.jp/>

わびあいの里反戦平和資料館

7月20日に「平和の思いを次代へつなぐ」というテーマで座談会が開催され、ヌチド

ウタカラの家反戦平和資料館館長の謝花悦子氏と笑ばあ会（沖縄市とうるま市で小中高生と保護者で平和屋社会問題などを勉強するグループ）の比嘉ゆか氏が話をされました。子どもの無関心など、次世代につなげる難しさ、どのように活動をしたらよいのかなどが紹介されています。

（「花は土に咲く」8号2005年10月1日発行）

Tel: 0980-49-3047 Fax: 0980-49-5834

出版物など

“終戦の日とアジア諸国”（「ヒューマンライツ」10月号）に関西大学名誉教授の小山仁示氏が、重慶と大阪の交流について執筆をされています。

「大阪中国人強制連行追悼委ニュース」（第9号・9月20日発行）に、大阪に強制連行された中国人の追悼碑の建立について、書かれています。

連絡先: 〒537-0002 大阪市東成区深江南2-17-18 清水様気付 大阪中国人強制連行受難者追悼実行委員会

『空襲と動員 戦争が終わって60年』

小山 仁示著 解放出版社 2005年 ¥2000

『戦争と平和の「解剖学」』

常本 一 著 東方出版 2005年 ¥1500

『戦争をなくすための平和教育:「暴力の文化」から「平和の文化」へ』

ベティ・リアドン、アリシア・カベスード著
藤田 秀雄、浅川 和也監訳

明石書店 2005年 ¥2800

『広島平和科学』27 (太平洋島嶼フォーラムの対ASEAN外交 小柏葉子 その他) 広島大学平和科学研究センター 2005年1月

『IPSHU研究報告シリーズ』研究報告 No. 33
現代世界経済秩序の形成とアメリカ海軍の役割
鹿野忠生・橋本金平著 広島大学平和研究科学センター February, 2005

『IPSHU研究報告シリーズ』研究報告 No. 34
広島大学原爆放射線医学科学研究所蔵 平岡敬関係文書目録 (韓国人・朝鮮人被爆者問題関係史料) 広島大学文書館編 July, 2005

『映像文化協会ニュース』第13号・2005年8月15日: シリーズ第5作完成「教えられなかった戦争・中国編 侵略からの解放・革命」
ビデオ¥15,000 DVD: ¥20,000
Tel: 045-981-0834 Fax: 045-981-0918
eizobunka@r5.dion.ne.jp

季刊『前夜』(編集委員～岡本有佳、菊池恵介、高和政、徐京植、高橋哲哉、中西新太郎、三宅晶子、李孝徳)

『高知・20世紀の戦争と平和』(「高知・20世紀の戦争と平和」編集委員会、高知・空襲と戦災を記録する会編集) 平和資料館・草の家、2005年 ¥1300

Thought about Peace edited by Øivind Sternersen. Nobel Peace Center, 2005.

お願い

2005年度会費未納の方には、請求と振替用紙を同封しております。会費2000円を納入してください。なお未納会費のある方は未納分も合わせて納入ください。新入会も歓迎します。事務局の立命館大学国際平和ミュージアムの山辺まで、お名前・ご住所をお知らせの上、会費2000円をお送りください。

また「平和のための博物館・市民ネットワーク」のあり方などについてもご意見をお寄せください。

※おことわり※

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。